

令和7年度
業 務 年 報

2026. 7

香川県農業試験場

[香農試印刷物 第1649 (26-01)号]

目 次

I 概 要

- 1. 組織と業務内容 1
- 2. 職員配置 2
- 3. 場内主要会議等 3

II 財産・決算

- 1. 施設 4
- 2. 施設・備品整備実績 4
- 3. 寄付・寄贈 4
- 4. 令和7年度決算 5

III 試験研究の実施状況

〔新農業技術開発事業〕

- 1～2. 強みのある香川県農業を支える技術開発 6
- 3～5. 地球温暖化に対応した新品種開発事業 6
- 6. DNA マーカーを用いたオリジナル品種開発加速化事業
(第2期) 6
- 7. 次世代の香川型施設園芸プラットフォーム開発事業 7
- 8. 県オリジナルキウイフルーツの栽培適地拡大技術の開発
事業 8
- 9. 気候変動と脱炭素に対応した新品種・新技術の開発事業
..... 8

〔公設試験研究機関共同研究事業〕

- 10. さぬきの新規後発酵茶の開発 9
- 11. コスト低減と増収を目指した施設園芸における植物残渣
の有効利用技術の開発 9

〔場内共同研究〕

- 12. 地域農産物農薬安全使用推進事業 9
- 13. 農薬適正使用総合啓発推進事業 10

〔競争的資金等〕

- 14. アスパラガス茎枯病抵抗性スーパー品種で創る新たな持
続的生産体系 10
- 15. 「シャインマスカット」未開花症発生要因の解明と発生
軽減技術の開発・実証 10
- 16. スマート生産方式SOP 作成研究 10
- 17. スマート技術向けの特性を持つ果樹品種の開発 .. 11
- 18. 園芸作物における有機栽培に対応した病害虫対策技術の
構築(委託プロジェクト) 11

- 19. 気候変動による低温被害と高温果皮障害を軽減できる多
収性ビワ新品種の開発 11
- 20. 耐病性に優れた府県向け高品質小麦系統の開発と実用化
..... 11

〔受託事業等(民間)〕

- 21. 新除草剤等の効果検定試験 11
- 22. 殺菌剤・殺虫剤の効果検定試験 12
- 23. 新肥料の肥効試験 12
- 24. ドローンによるブロッコリーの病害虫防除技術の検討
..... 12
- 25. 常温煙霧による施設イチゴ害虫防除技術の確立 .. 12
- 26. ウンシュウミカン「石地」の半樹別交互結実技術の確立
..... 13
- 27. 赤外線光照射によるオリーブ炭疽病の発病抑止効果の検
討 13
- 28. 国内産麦の研究開発支援事業 13

〔受託事業等(国、国研等)〕

- 29. 温室効果ガス抑制土壌調査事業 13
- 30. 農薬残留対策総合調査 13
- 31. 花きの優良種苗、新品種種苗等の効率的な増殖に資する
技術(ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業)
..... 14

〔企画・営農研究課〕

- 32. 試験研究企画推進、研究情報管理技術の確立 14
- 33. 農業の機械化に関する研究 14

〔病虫・環境研究課〕

- 34. 環境にやさしい農業推進事業 14
- 35. 生産環境安定対策技術の確立 14
- 36. 病害虫発生子察 15
- 37. 特殊病害虫防除対策 15
- 38. 肥料検査業務 15
- 39. ダム水質調査 15
- 40. 環境と調和した土づくり対策事業 15

〔作物・特作研究課〕

- 41. 普通作物の生産安定化技術の確立 16
- 42. 次世代さぬきうどん用小麦と温暖化対応水稻品種の開発
..... 16

43. 主要農作物の原原種、原種育成事業	16
----------------------	----

【野菜・花き研究課】

44. 環境保全型グリーン農業実証定着事業	17
45. 野菜生産における省力安定化技術の確立	17
46. 花き類の高品質安定生産技術の確立	17

【府中果樹研究所】

47. 果樹の品種開発とその普及定着に向けた安定生産技術の確立	18
48. 果樹等作物病害虫発生予察事業	19
49. 「県産レモン」産地倍増化事業	19

【小豆オリーブ研究所】

50. オリーブの安定生産技術の開発	20
51. オリーブオイル官能評価業務	20
52. オリーブに関する情報発信業務	21

【園芸総合センター】

53. 主要園芸作物の原種養成	21
54. 園芸作物の栽培展示	21
55. 研修指導	22
56. 園芸総合センター整備事業	23

【病害虫防除所】

57. 発生予察関係	24
58. 防除指導関係	25
59. 農薬指導取締関係	25

IV 試験研究の成果と成果の公表

1. 農業に関する普及・研究・行政連絡会議	26
2. 印刷刊行物	27
3. 豊穣	27
4. 香川県農業試験場研究報告	27
5. 学会等発表・講演	28
6. 報告書、雑誌等	29
7. 職務発明	30

V 指導・啓発活動

1. 農業大学校講師派遣	31
2. 研修会等の講師など	32
3. 品評会、審査会等の出席	32
4. 技術研修生等受け入れ	33
5. 技術指導・見学来訪者など	34

VI その他

1. 委員会・協議会等の委員など	39
2. 職員研修	40

I 概要

1. 組織と業務内容

総括	研究所等	部門・課	業 務 内 容
場 長 副場長	本場	(総務課)	庶務、人事、財産、経理
		(企画・営農研究課)	試験研究の企画調整及び産学官連携 農業機械の開発及び作業体系の改善 情報管理及び農業経営改善
		(病虫・環境研究課)	土壌管理、施肥及び栄養診断技術 病害虫の防除技術及び農薬残留等調査 組織培養・遺伝子診断技術の開発
		(作物・特作研究課)	水稻・麦等の品種育成及び栽培技術 水稻・麦等の原種育成及び増殖
		(野菜・花き研究課)	野菜の栽培技術及び品種育成 花きの栽培技術及び品種育成
		(満濃試験地)	野菜の栽培技術
	府中果樹研究所	総務	庶務・経理・庁舎管理
		(果樹研究課) 品種開発	果樹の品種選定・育成
		栽培技術	果樹の栽培技術
	小豆オリーブ研究所	土壌・病害虫	果樹の土壌管理、施肥及び病害虫防除技術
		栽培	オリーブの品種選定・育成及び栽培技術
		環境	オリーブの土壌管理、施肥及び病害虫防除技術
		品質評価	オリーブオイルの品質評価及び高品質化
		総務・情報発信	オリーブに関する情報発信・庶務・経理
	園芸総合センター	総務	庶務・経理
		原種生産	茎頂培養等による原々種養成及び原種増殖
		技術研修	研修・指導及び実証展示
	病害虫防除所	発生予察	病害虫の発生予察
		防除指導 農薬指導取締	防除指導及び農薬の取締、鳥獣害対策

職員数

(令和8年3月31日現在)

研 究 職	行 政 職	技 能 職	再任用 育休代替	会計年度 任用職員	合 計
46	13	0	13	57	129

2. 職員配置

令和8年3月31日現在

所 属	職 名	氏 名	備考
本場	場長	十河士志夫	行政
	副場長	西部 克彦	〃
	〃	藤本 伸	〃
総務課	副場長(兼)課長	西部 克彦	行政
	副主幹	池田 誠	〃
	〃	石村 抄織	〃
企画・営農研究課	〃	大西 昇	〃
	主任	根ヶ山幸祐	〃
	副場長(兼)課長	藤本 伸	研究
〃	主席研究員	中村 雅彦	〃
	主任研究員	香川 綾香	〃
	〃	西村 融典	再任用
〃	〃	中村 裕彦	〃
	課長	川西 健児	研究
	主席研究員	香西 清弘	〃
〃	〃	平木 孝典	〃
	〃	中井 清裕	〃
	主任研究員	松本 匠哉	〃
〃	〃	小田 千絵	〃
	〃	植田 早紀	〃
	主任技師	吉田 美優	〃
〃	技師	片山 貴博	〃
	〃	菰淵 啓三	代替
〃	課長	山地 優徳	研究
	主席研究員	岡田 彰夫	〃
	主任研究員	相澤 美里	〃
〃	〃	多田 祐真	〃
	主任技師	谷川 昭彦	〃
	〃	河原 望遥	〃
〃	課長	池内 隆夫	研究
	主任研究員	浜田 佳代子	〃
	〃	伊藤 博紀	再任用
〃	主任技師	樋林 美穂	研究
	〃	鬼木 あさひ	〃
	〃	山崎 愛	〃
〃	〃	村上 裕一	〃
	〃	藤井 詩乃	〃
	技師	伊藤 彩	〃
〃	〃	小松 奈央	代替
(滴濃試験地)	主席研究員	大矢 啓三	研究
府中果樹研究所	所長	森 芳史	行政
	総務担当 副主幹	関 隆司	〃
	課長	山田 英尚	研究
果樹研究課	品種開発担当 主任技師	久保 雅秀	〃
	技師	中山 史菜	〃
〃			〃

所 属	職 名	氏 名	備考
栽培技術担当	主席研究員	福田 哲生	研究
	主任研究員	伊賀 悠人	〃
	技師	秋山 晃輝	〃
土壌・病害虫担当	主席研究員	生咲 巖	〃
	主任技師	多田 寿和子	〃
小豆オリーブ研究所	所長	中西 正憲	行政
	栽培担当 主席研究員	川原 清剛	研究
	主席研究員(兼) 技師(兼)	米澤 晃子	〃
品質評価担当	〃	山本 実奈	〃
	主席研究員(兼)	川原 清剛	〃
	主任研究員	木下 和也	〃
環境担当	技師(兼)	山本 実奈	〃
	主席研究員	米澤 晃子	〃
	技師	山本 実奈	〃
総務・情報発信担当	主席研究員(兼)	川原 清剛	〃
	主席研究員(兼)	米澤 晃子	〃
	主任研究員(兼)	木下 和也	〃
園芸総合センター	所長	大熊 将夫	行政
	総務担当 副主幹	三原 真由美	〃
	原種生産担当 主席研究員	村口 浩	研究
技術研修担当	主任研究員	藤田 究	再任用
	主任研究員	藤原 尉嗣	再任用
	主席研究員	大川 俊彦	研究
〃	主任研究員	松本 英治	再任用
	〃	古市 智	〃
	〃	柴田 裕子	〃
〃	主任技師	加畑 真理	研究
病害虫防除所	所長	森 充隆	行政
	発生予察担当 主席研究員	三浦 靖	研究
	主任研究員	井之川 育篤	再任用
防除指導担当	〃	川田 千瑛	研究
	主任技師	長尾 洋輝	〃
	主席研究員	鐘江 保忠	〃
農薬指導取締担当	主任研究員	小野 壮一朗	再任用
	技師	北尾 美咲	研究
	〃	西川 辰洋	代替
〃	主席研究員(兼)	三浦 靖	研究
	主席研究員(兼)	鐘江 保忠	〃
	主任研究員(兼)	小野 壮一朗	再任用
〃	〃	井之川 育篤	〃
	〃	川田 千瑛	研究
	主任技師(兼)	長尾 洋輝	〃
〃	技師(兼)	北尾 美咲	研究
	〃	西川 辰洋	代替

3. 場内主要会議等

1) 研究成果発表会

開催日：令和7年12月9日（火）

場 所：農業試験場本場

- 成果発表講演会
- 研究成果ポスターの掲示（エントランスホール）

2) 企画連絡会議

第1回：令和7年4月15日（火）（本場）

第2回：令和7年5月13日（火）（本場）

第3回：令和7年6月3日（火）（本場）

第4回：令和7年7月1日（火）（本場）

第5回：令和7年8月5日（火）（本場）

第6回：令和7年9月2日（火）（本場）

第7回：令和7年10月7日（火）（本場）

第8回：令和7年11月4日（火）（本場）

第9回：令和7年12月2日（火）（本場）

第10回：令和8年1月6日（火）（本場）

第11回：令和8年2月3日（火）（本場）

第12回：令和8年3月3日（火）（本場）

3) 農業試験場発明等審査委員会

第1回：令和7年7月15日（火）

議 題：品種登録 1件

Ⅱ 財産・決算

1. 施設

(令和8年3月31日現在) (単位: m²)

区分		本場	満濃試験地	府中果樹研究所	小豆オリーブ研究所	園芸総合センター	計
土地	建物敷地	36,178.78	4998.45	10,237.00	2,266.01	40,177.88	85,290.40
	圃場	124,249.13	23,454.48	106,480.28	9,787.00	18,851.48	288,675.09
	その他	7,118.07	9,663.00	4,473.30	501.00	4,256.92	26,435.29
	総用地計	167,545.98	38,115.93	121,190.58	12,554.01	63,286.28	400,400.78
うち建物延べ床面積		19,442.38	947.53	2,146.82	486.81	5,922.41	31,666.48

2. 施設・備品整備実績 (令和7年度農業試験場施設整備費(県単)による備品の整備等)

内 容	部門等	内 容	部門等
電子天秤 オーガセツト 常温煙霧機 PCR サーマルサイクラー	病虫・環境 研究課	トラック デジタル照度計 果実硬度計 デジタル糖度計 色彩式差計 土壌硬度計 ほか	府中果樹 研究所
デジタル台秤 ブロードキャスター バインダー 穀粒判別機	作物・特作 研究課	展示台 芝刈機 人工気象器 ロッカー型自販機 デジタルサイネージ ほか	園芸総合 センター
温度測定器 土壌測定機器 人工気象器	野菜・花き 研究課	インキュベーター	病害虫防除所

3. 寄付、寄贈

内 容	数量等	寄付、寄贈者等
寄付金	1,000,000 円 (PR 用デジタルサイネージを購入)	個人
ウチョウラン	26 鉢	個人
園芸植物	4 鉢	個人

4. 令和7年度決算

(単位：千円)

節 別	区 分	農業試験場費 (明許繰越含まない)	農業改良普及費	環境農業費	農作物対策費	植物防疫費	農業大学校費
1	報酬	120,518					
2	給料	249,306					
3	職員手当	188,431					
4	共済費	100,506					
7	報償費	1,223		1			
8	旅費	12,389	45	30	31		42
10	需用費	105,953	517	532	937	488	
11	役務費	8,213		2	451		
12	委託料	61,389					
13	使用料及び賃借料	1,769					
15	工事請負費	21,400					
17	備品購入費	29,941					
18	負担金、補助及び交付金	1,675					
合 計		902,713	562	565	1,419	488	42
財 源 内 訳	国庫支出金	10,756					
	使用料及び手数料	1,081					
	寄附金	1,000					
	財産収入	27,495					
	諸収入	38,238					
	県債	27,000					
	一般歳入	797,143					

節 別	区 分	病虫害 防除所費	園芸振興費	特用作物振 興費	畜産業費 家畜保健 衛生費	商工費 産業技術 センター費	土木費 河川海岸 総務費	合 計
1	報酬							120,518
2	給料							249,306
3	職員手当							188,431
4	共済費							100,506
7	報償費	602						1,826
8	旅費	486	202	7	25		13	13,270
10	需用費	2,453	3,307	656		200	1,029	116,072
11	役務費	335	36	445			38	9,525
12	委託料	180	11,574				481	73,624
13	使用料及び賃借料	58	22				5	1,854
15	工事請負費							21,400
17	備品購入費	1,309						31,250
18	負担金、補助及び交付金	19		104				1,798
合 計		5,442	15,141	1,212	25	200	1,566	929,375

III 試験研究の実施状況

[新農業技術開発事業]

[強みのある香川県農業を支える技術開発]

1. オリーブ新品種「香オリ3号」「香オリ5号」の普及に向けた安定生産技術の確立と加工適性の解明

(小豆オリーブ研究所)

目的：オリジナル品種の栽培上の特性を把握し、基礎技術のデータ収集を行い、管理技術や加工目的に応じた収穫時期と品質評価を明らかにする。

1) オリジナル品種の安定生産技術の開発

オリジナル品種と慣行2品種の特性を比較検討し、両品種とも炭疽病に強く、新漬・オイル兼用品種は果実肥大に優れることを確認した。また、同時に植栽したオリジナル品種と慣行1品種の7年目(収穫4年目)までの比較調査では、両品種ともに慣行品種に比べて樹冠容積が大きく、収量は下回る傾向であることを確認した。

(川原清剛・山本実奈)

2) オリジナル品種の加工適性の解明

オリジナル品種と慣行2品種の加工適性を比較検討し、新漬・オイル兼用品種では採油率が早期から安定して高く、オイル専用品種ではポリフェノール含量が多いことを確認した。また、オリジナル品種2品種をブレンドしたオイルの官能評価を実施し、それぞれの特徴を活かせることが可能と思われた。

(川原清剛・山本実奈)

2. 温暖化に強いウンシュウミカンの安定生産技術の確立

(府中果樹研究所)

目的：「あすみ」は、果実肥大期の裂果による収量低下が問題となっている。そこで果実の安定生産を図るための栽培管理技術を開発する。

1) 「あすみ」の安定生産技術の開発

裂果軽減を目的に植調剤として、エチクロゼート乳剤、NAA水溶剤を用いて試験を行った。これら植調剤を用いることで、裂果率が低下した。

(久保雅秀・山田英尚・秋山晃輝)

[地球温暖化に対応した新品種開発事業]

3. DNAマーカー育種による有用遺伝子の導入

(作物・特作、病虫・環境)

目的：「おいでまい」の優れた特性に加え、いもち病ほ場抵抗性遺伝子を持つ品種を育成するため、DNAマーカーを用いた選抜技術を確立する。

1) いもち病抵抗性の導入と選抜技術の確立

「おいでまい」といもち病ほ場抵抗性を持つ2品種の戻し交配系統間の交配後代F₄世代を養成し、*Pb1*及び*pi21*、*Pb1*、*pi21*及び*Pi39*をホモに有する2系統に地方番号「香系29号」及び「香系30号」を付し、生産力検定、玄米外観品質・飯米の食味評価を行うとともに品種登録出願に必要な形質及び特性調査を行った。

なお、2系統のいもち病ほ場抵抗性遺伝子の確認はDNAマーカーを活用した。

(相澤美里・多田祐真・植田早紀)

4. 超促成栽培が可能な高品質多収イチゴ品種の開発 (野菜・花き)

目的：地球温暖化が進行する中、早期出荷、安定生産が可能となる高品質な種子繁殖型品種を育成する。

1) 種子繁殖型F₁品種の開発

主として「さぬき姫」に由来する自殖固定系統(S4世代)の交配により得られたF₁系統の中から選抜した有望系統について、糖度向上に向けた試験を行った。

また、次のF₁系統候補を作出するため、前年度に交配した系統の調査を行った。

(伊藤彩・伊藤博紀)

5. 地球温暖化に対応した新たな高付加価値果実の開発 (府中果樹研究所)

目的：夏秋季の高温によるカンキツの浮皮等の品質低下を避けるため、温暖化の影響を受けにくく、特徴のある高付加価値果実品種を育成・導入する。

1) 温暖化の影響を受けにくく、優良な形質を持つカンキツ新品種の育成

府中保有系統の交雑種4組合せについて、簡易調査を実施した。

新たに有望な組み合わせについて交配を行い、交雑種子を獲得した。

(久保雅秀・山田英尚・中山史菜)

[DNAマーカーを用いたオリジナル品種 開発加速化事業(第2期)]

6. DNAマーカーを用いたオリジナル品種開発加速化事業(第2期)

(病虫・環境、作物・特作、府中果樹研究所、
小豆オリーブ研究所)

目的：本県のオリジナル品種開発において、これまでの取組みに新たな手法や視点を加え、オリジナル品種育成の加速化と新たな価値を効率的に付加するための技術開発を行う。

1) さぬきうどんに適した次世代「さぬきの夢」の早期選抜技術の開発

麺色の経時変化に関係するポリフェノール酸化酵素の高・低活性型を判定できる DNA マーカー (*Ppo-A1*, *Ppo-B1*) を利用し、所有する遺伝資源等の遺伝子型を判別した。
(多田祐真・植田早紀)

2) 種なしカンキツの育種を加速化できる技術の開発

ほ場で高接ぎしている系統に対して調査した結果、52系統中14系統の雄性不稔を確認するとともに、品質調査時に含核数から適応性を確認した。

また、令和6年度交配分(ポット育苗中)について調査した結果、104系統中25系統の雄性不稔を確認した。
(久保雅秀・植田早紀)

3) 茎枯病に対する抵抗性を有するアスパラガス個体選抜技術の開発

茎枯病抵抗性判別共優性マーカーを用いて判別された抵抗性ホモ2個体と食用アスパラガスを交配し、得られた集団計129個体について接種検定を実施した。
(植田早紀)

4) 強みのある次期オリーブ品種の開発に向けた選抜技術の確立

炭疽病抵抗性が低い1品種及び中程度1品種の葉からCTAB法を用いてDNAを抽出し、ショートリードの次世代シーケンス解析を行った。(山本実奈・植田早紀)

[次世代の香川型施設園芸プラットフォーム 開発事業]

7. 次世代の香川型施設園芸プラットフォーム開発事業 (野菜・花き、企画・営農、病虫・環境、 府中果樹研究所)

目的：野菜・花き・果樹の各品目において、省力化と安定生産が可能な栽培方式である「レイズドベッド」の規格化を検討するとともに、耐候性が高く換気性能の優れた「NNハウス」において、導入品目を拡大しながら新たな生産体系を開発し、「自動走行防除機」等の新たな防除技術を組み合わせることで、多様な品目に適用できる「次世代の施設園芸プラットフォーム」を開発する。

1) 「レイズドベッド」による栽培方式の規格化と高収益生産体系の開発

(1) 栽培ベッドの規格化

ミニトマトについて、4月定植の夏秋どり作型においてベッドの培地種類を検討したところ、ロックウールのみのベッド(幅30cm)がロックウールベッド(上段：ロックウール、下段：砂砕)(幅30cm)よりも収量性で優れた。

(小松奈央・大矢啓三)

イチゴについて、レイズドベッドの適正着果数の検討を行い、慣行よりも着果数を増やすことで収量の向上が見られた。

(伊藤 彩・伊藤博紀)

ラナンキュラスについては、軽量の培土を検討したところ、慣行の花崗土が収量性で優れていた。

(樋林美穂・浜田佳代子)

ウンシュウミカン幼木の育成において、レイズドベッドによる生育の差は見られなかった。

(久保雅秀・山田英尚・秋山晃輝)

(2) 新品種への適応性確認

アスパラガスについては、「さぬきのめざめ2021」の最適管理技術の確立に向けて、立基本数や茎径の違いによる収量、品質への影響を確認した。

(藤井詩乃)

(3) 自動走行防除機の開発

レイズドベッドに対応した自動走行防除機及び散布ノズルを試作し、各種品目における散布の実証を行った。

(西村融典・中村裕彦)

イチゴにおいて試作された自動走行防除機を用いて、ナミハダニとアザミウマ類を対象に、フルキサメタミド乳剤の散布試験を実施した。その結果、ナミハダニでは手散布と同等の効果があつた。アザミウマ類は発生が少なかったため効果は判然としなかった。葉裏への薬剤の付着量は十分だった。

アスパラガスにおいて、試作された自動走行防除機を用いて、カンザワハダニを対象にクロルフェナピル水和剤の散布試験を実施した。アスパラガス擬葉への薬剤の付着量はサイド側上部で低く、カンザワハダニの防除には不十分と考えられた。

ラナンキュラスにおいて試作された無人走行防除機を用いて、アブラムシ対象にクロチアニジン水溶剤の散布試験を実施した。その結果、手散布と比較して葉での薬剤の付着量は低かった。

(中井清裕・松本匠哉・香西清弘・菰渕敬三)

2) 「NNハウス」の特性を活かした栽培体系の開発

(1) 換気性能を活かした夏秋作型の開発

ミニトマトについて、NNハウスでの夏秋どり作型における品種を検討した。前年度、有望であった品種と従来の慣行品種に加えて今年度、新たに有望と思われる品種の合計3品種の生産性、品質を調査した。いずれの栽

培ベッドにおいても、前年度優秀であった品種の収量が優れた。

整枝法として、前年度有望であった品種について更新法を検討したところ、慣行品種より収量が多かった。
(小松奈央・大矢啓三)

(2) 保温力向上による省エネ生産体系の開発

ラナンキュラスについて、NNハウスと慣行のパイプハウスにおいて供試品種を増やし、生産性に関する調査を行った。
(檀林美穂・浜田佳代子)

3) 減農薬・減化学肥料生産体系の開発

(1) 減農薬防除体系の確立

①レイズドベッドにおける低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒効果の検討

イチゴのレイズドベッドにおける低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒効果（対象病原菌：*Fusarium oxysporum* nit C-8 I-I 変異株）の検討を真砂土および水田土壌で行った。真砂土では還元作用による殺菌効果は認められなかったのに対し水田土壌では表層から 60cm 深まで還元作用による殺菌効果を認めた。同菌の死滅には 300ppm 以上の二価鉄が必要である可能性が示唆された。

(片山貴博・吉田美優・中井清裕・伊藤 彩)

②防虫ネットと天敵生物を利用した栽培実証

農薬を練りこんだ防虫ネットを展張するとともに、アザミウマ類の天敵スワルスキーカブリダニと天敵温存植物であるスカエボラを導入し、施設栽培アスパラガスにおいてアザミウマ類の防除効果を検討した。その結果、スワルスキーカブリダニによるアザミウマ類の防除効果が認められ、アザミウマ類に対する化学農薬の使用回数を削減することができた。

(中井清裕・松本匠哉・藤井詩乃)

(2) 化学肥料低減に向けた低コスト施肥体系の確立

イチゴについては、レイズドベッドによる無加温栽培において、緩効性肥料と液肥を用いて肥培管理の検討を行った。
(伊藤 彩・伊藤博紀)

アスパラガスについては、施肥量の検討を行うため、夏秋芽収穫時期より立基本数を増やし株養成を行うとともにほ場の土壌分析を実施した。

(藤井詩乃・村上裕一・中井清裕)

ラナンキュラスについては、NNハウスと慣行のパイプハウスにおいてかん水、施肥量および収量調査を行った。
(檀林美穂・浜田佳代子)

ウンシュウミカンについては、点滴かん水同時施肥において、慣行施肥量に対して3割減肥区を設けて栽培を比較したところ、生育に差はなかった。

(久保雅秀・山田英尚・秋山晃輝)

[県オリジナルキウイフルーツの栽培適地拡大技術の開発事業]

8. 県オリジナルキウイフルーツの栽培適地拡大技術の開発

(府中果樹研究所)

目的：湿害に強い台木候補による県オリジナルキウイフルーツの栽培技術と低コストなキウイフルーツ用果樹棚を開発することで、省力・低コスト化を図り、遊休水田などの平坦地を利用した更なる栽培面積の拡大とブランド化の推進を図る。

1) 新台木の適応性検証

キウイフルーツの3種類の台木について、湛水処理により耐湿性を評価した。新台木は既存台木に比べて根の量が多く、分布範囲も広いことが認められた。

(多田寿和子)

2) 新台木を用いた平坦地での栽培性の検討

県オリジナルキウイフルーツ7品種について、4種類の台木の特性を調査した。それぞれの樹体生育、収量および果実品質について特性を確認できた。

(伊賀悠人・福田哲生・中山史菜)

3) 新台木の増殖技術の検討

マクロス台は挿し木効率が既存台木よりも高いことが判明した。
(伊賀悠人・福田哲生・中山史菜)

4) 自力施工可能な低コスト耐候性果樹棚の開発

農研機構に委託し、自力施工可能な低コスト耐候性果樹棚を試作した。
(伊賀悠人・福田哲生・中山史菜)

[気候変動と脱炭素に対応した新品種・新技術の開発事業]

9. 気候変動と脱炭素に対応した新品種・新技術の開発事業

(野菜・花き、企画・営農、病虫・環境、作物・特作)

目的：周年栽培（露地アスパラガス）や米麦との輪作体系に適する露地野菜（ニンニク）の栽培技術と系統を検討する。

1) 露地アスパラガス有機栽培の検討

有機肥料のみを用いて栽培し、定植2年目の収穫調査を行った。

黄緑色 LED 防蛾灯と有機 JAS 規格に対応した薬剤を用い、発生害虫に対する防除の有効性を検討した。

露地アスパラガスにおいて問題となる害虫種は、春季はネギアザミウマなどのアザミウマ類とアブラムシ類、秋季はアザミウマ類とハスモンヨトウなどのヨトウ類で

あり、アザミウマ類は有機 JAS で使用可能な薬剤で対応できると考えられ、ヨトウ類は黄緑色 LED 防蛾灯と有機 JAS で使用可能な薬剤で対応できると考えられた。

(村上裕一・池内隆夫・藤井詩乃・中井清裕・松本匠哉)

2) ニンニクの系統選抜及び栽培体系の確立

選抜した系統を用いた栽培体系および土壌や白絹病、春腐病の発生病害発生消長調査および防除試験を行った。また、茎頂培養法を確立した。

(村上裕一・池内隆夫・中井清裕・片山貴博
・吉田美優・植田早紀)

3) ニンニクの機械化実態調査

ニンニク作業機械の利用実態を調査するとともに、調製作業の省力化を目的に、茎盤部を切除するためのハサミ固定具及び根擦り機の現地実証を行い、作業性やニンニクの品質について調査した。(中村裕彦・西村融典)

4) ニンニク・水稻の輪作試験

ニンニク収穫(茎葉残渣すき込み) 1 週間後に田植えを行ったが、水稻の生育に支障はなく、田畑転換による二毛作は可能であった。(森 芳史・河原望遥)

5) ニンニク品種判別技術の開発

選抜系統を含む 8 系統について GRAS-Di 解析を行い、多型を探索した。(植田早紀)

6) ラナンキュラスの新系統育成

塊根冷蔵を行わない場合の交配親として有望な「春てまり」と交配して得られた実生について開花日を確認し、選抜を行った。また、キンボウゲ科の植物との交配から得られた実生を無加温条件下で収量性を調査し、選抜を行った。(樫林美穂・浜田佳代子)

ラナンキュラスマイルドモザイクウイルスに感染してもモザイク症状の出にくい「恋てまり」の選抜法を検討した。(片山貴博・吉田美優・浜田佳代子)

[公設試験研究機関共同研究事業]

10. さぬきの新規後発酵茶の開発

(小豆オリーブ研究所)

目的: 四国において香川県のみが後発酵茶の文化がなく、醤油や味噌の醸造に使用される麹菌、耐塩性乳酸菌を用いた「さぬきの新規後発酵茶」を開発する。

<主査: 産業技術センター>

1) 堆肥施用量がオリーブ葉の生育及び品質に与える影響

堆肥を多用することで、若木の樹冠拡大が図られる傾向も見られたが、適量の範囲は把握できなかった。ま

た、葉の品質に大きな差は見られなかった。

(川原清剛・山本実奈)

11. コスト低減と増収を目指した施設園芸における植物残渣の有効利用技術の開発

(野菜・花き研究課)

目的: 植物残渣(イチゴ、ミニトマト、アスパラガス等)の堆肥化の過程で発生する CO₂を光合成促進に活用するための基礎データを収集する。また、堆肥化の際に臭気の発生が懸念されるため、臭気対策の検討を行う。

1) 植物残渣からの CO₂発生量の把握

イチゴ及びミニトマト残渣を蓄積した土壌を用いて CO₂発生量の確認を行ったところ、CO₂発生量の増加が確認された。(伊藤 彩)

2) 植物残渣の堆肥化における最適条件の解明

イチゴの分解時に発生する臭気対策として用いる活性炭の消臭効果の持続時間について調査した。

<主査: 環境保健研究センター>

[場内共同研究]

12. 地域農産物農薬安全使用推進事業

(病虫・環境、野菜・花き、病害虫防除所、府中果樹研究所、小豆オリーブ研究所)

目的: 登録農薬に限られるため、栽培対応が困難になっている県内の地域特産作物について、農薬登録の適用拡大に必要な農薬残留量調査等を実施する。

1) オリーブに対する薬効・薬害試験

炭疽病に対する 2 剤の防除効果はやや低かった。炭疽病に対するジマンダイセン水和剤(10 倍、8L/10a ドローン散布) 2 回散布は、軽微な汚れが認められたものの薬害は認められなかった。

オリーブアナアキゾウムシに対するグレーシア乳剤(200 倍、株元散布)の防除効果が認められた。また、成虫に対する食餌浸漬試験および虫体浸漬試験での殺虫効果は良好であった。(米澤晃子)

2) パセリに対する薬効・薬害試験・残留試験

セフィーナ DC(アフィドピロペン 4.9%)を 8,000 倍 2 回散布し、残留量は基準値以下となることを確認した。

(香西清弘・菰淵啓三)

アブラムシ類に対するセフィーナ DC の防除効果と薬害を検討した結果、防除効果があり薬害も認められなかったことから、普及性があると判断した。(三浦 靖)

3) ラナンキュラスに対する薬効・薬害試験

株枯病に対するペンコゼブ水和剤（400 倍塊根浸漬）の防除効果試験では、株枯病が発生せず防除効果を確認できなかった。（三浦 靖）

4) マーガレットに対する薬効・薬害試験

マーガレットのヨトウムシ類に対するベリマーク SC の防除効果と薬害を検討した結果、防除効果があり薬害も認められなかったことから、普及性があると判断した。（三浦 靖）

13. 農薬適正使用総合啓発推進事業

（病虫・環境、病害虫防除所）

目的：県産農産物の安全・安心を確保するため、モデル地区とモニター農家を設定して、病虫・環境研究課が生産物の農薬残留状況を、病害虫防除所と農業改良普及センターが農薬散布実績と病害虫の発生状況等を調査し、総合的で適切な防除指導を行う。

1) パセリ

農薬使用の実態調査を行った結果、農薬の使用は安全かつ適正であった。また、病害虫の発生状況を調査した。（井之川育篤・鐘江保忠）

2) 非結球レタス

西讃農業改良普及センター管内の生産者3戸において、非結球レタスの年明け厳寒期どりで散布農薬の分析調査を実施したところ、全て基準値以下であった。

（香西清弘）

農薬使用の実態調査を行った結果、農薬の使用は安全かつ適正であった。また、病害虫の発生状況を調査し、防除暦の見直しを行った。（北尾美咲・三浦 靖）

〔競争的資金等〕

14. アスパラガス茎枯病抵抗性スーパー品種で創る新たな持続的生産体系

（野菜・花き、病虫・環境、企画・営農）

目的：農研機構、九州大学、東北大学と共同で開発した露地用アスパラガス新品種の全国各地での栽培方法及び普及方法を検討する。 <委託元：農林水産省>

1) 一斉収穫方法の検討

露地アスパラガスの刈り取り機を試作し、一斉収穫の作業性や刈取精度について検討した。

（西村融典・中村裕彦）

露地用アスパラガス新品種多年生株の一斉収穫を行い、その収量性を評価した。

（村上裕一・藤井詩乃・池内隆夫）

2) 環境負荷低減技術の開発

（1）瀬戸内地方での栽培技術の開発

殺菌剤について化学合成農薬の使用回数を50%削減した減農薬防除暦に沿った防除を行い、茎枯病に対する防除効果を検討した。（片山貴博・吉田美優）

15. 「シャインマスカット」未開花症発生要因の解明と発生軽減技術の開発・実証

（府中果樹研究所）

目的：「シャインマスカット」の未開花症について、現地での聞き取り調査をはじめ、現地から採取した植物体サンプルの調査や土壌・環境データの解析により、未開花症発生と栽培条件との関係を解析し、要因の更なる抽出を行う。 <委託元：農林水産省>

1) 生産現場での未開花症発生状況および栽培条件の調査に基づく発生要因の解明

令和7年度発生園地において、土壌断面調査および土壌分析を実施した。発生園地2園、未発生園地1園において、気温、地温および土壌水分をモニタリングし、未開花症発生園地のうち1園地では土壌水分が高い傾向が見られた。（多田寿和子・福田哲生・生咲 巖）

2) 「シャインマスカット」未開花症発生軽減技術の開発

防除等を変えて栽培し、未開花症の発生が抑制される栽培環境条件を検討した。

（福田哲生・生咲 巖・多田寿和子）

16. スマート生産方式 SOP 作成研究

イチゴにおける自動選別パック詰めロボットの導入による出荷調製作業の効率向上

（野菜・花き、企画・営農）

目的：イチゴの出荷調製作業の省力化に向け、自動選別パック詰めロボットを導入。安定出荷や高品質化を実現する栽培技術や容器の開発と併せてロボットの運用効果を検証し、効率的な作業体系を SOP として策定する。

<委託元：農林水産省>

1) 収穫量安定化につながる定植前の最適な花芽分化誘導処理方法の確立

複数の短日夜冷処理開始日の検討および紙ポット育苗では、慣行と比較し月別収量の分散が確認され、出荷時期の調整に資する可能性が示された。

（伊藤博紀・伊藤 彩）

2) 果実データとハウス内環境モニタリングを活用した栽培管理改善システムの開発

イチゴ栽培施設における大玉果実割合向上に向け、施設内外の温度・湿度・飽差・CO₂濃度を計測する環境測定装置を設置し、年間を通じてデータ収集体制を構築した。施設環境の時系列変化や外気条件との関係を把握する基礎情報を収集した。(伊藤博紀・伊藤 彩)

3) 自動選別パック詰めロボットの導入効果の検証

農業法人において、自動選別パック詰めロボットの作業時間や選果精度等の作業性について調査を実施した。(中村裕彦)

17. スマート技術向けの特性を持つ果樹品種の開発

(府中果樹研究所)

目的：気候変動で深刻化するブドウの着色不良問題を解決するため、高温下でも良好な着色性を示し、収穫適期の判断が容易な品種を開発し、スマート農業の推進に貢献する。
＜委託元：農林水産省＞

1) 高温でも着色がよく収穫適期を判定しやすいブドウ品種候補の開発

品種候補系統について、香川県での適応性を検討した結果、適熟期に巨峰に比べて良好な着色性を示すことを明らかにした。(福田哲生・伊賀悠人・中山史菜)

18. 園芸作物における有機栽培に対応した病害虫対策技術の構築(委託プロジェクト)

(病虫・環境)

目的：腐植酸を有する有機資材を複数用いてアブラナ科根こぶ病菌に対する発病抑制効果を明らかにし、有効な資材を特定する。また、国産カブリダニ製剤の開発に向け、候補の選定を行う。
＜委託元：農林水産省＞

1) 根こぶ病菌に対する発病抑制効果の検証

場内の根こぶ病菌発生圃場において2種類の資材を混和処理後にブロッコリー・ハクサイを定植して評価を行った。秋冬作、春作ともに根こぶ病の発生が抑制される傾向を示すものもあった。

(吉田美優・川西健児・片山貴博)

2) ハダニに対する防除効果の検証

安価で使用性に優れた国産カブリダニ製剤の開発を行うため、イチゴのハダニ類への効果を調査した。

(川西健児)

19. 気候変動による低温被害と高温果皮障害を軽減でき

る多収性ビワ新品種の開発

(府中果樹研究所)

目的：冬季の寒害および夏季の果皮障害を軽減するため、幼果の耐寒性が高く、果皮障害が少ない多収性ビワを開発する。

1) 新品種候補の地域適応性の解明と耐寒性を有し多収生産が可能なビワ新品種の選抜

(1) 瀬戸内地方における地域適応性の解明と新品種の選抜

品種候補の3系統について、樹体特性や開花特性、果実特性を調査し、うち1系統を有望として評価した。

(秋山晃輝・山田英尚・久保雅秀)

20. 耐病性に優れた府県向け高品質小麦系統の開発と実用化

(作物・特作、病虫・環境)

目的：コムギ萎縮病(SBWMV)について発病方法及び検定方法について検討し、同病害の検定体制を確立する。
＜一般社団法人全国米麦改良協会公募事業＞

1) 発病方法及び検定方法の検討

発病方法について検討し、発病に相当であると思われる方法を明らかにした。また、葉身における発病程度差(無～甚)を一覧にした表を作成した。

(相澤美里・多田祐真・吉田美優・片山貴博)

[受託事業等(民間)]

21. 新除草剤等の効果検定試験

(作物・特作、野菜・花き、府中果樹研究所)

目的：新除草剤、生育調節剤の効果確認および被害等の確認を行い、農薬登録に必要な試験を実施する。

＜委託元：日本植物調節剤研究協会＞

1) 水稻

水稻対象の除草剤として、一発処理剤3剤を供試し、全ての剤について実用性ありと判断した。(河原望遥)

2) 果樹

ブドウおよびモモ対象の2剤について適用性を検討し、ブドウについては実用性あり、モモについては継続調査の必要ありと判断した。(福田哲生・中山史菜)

3) 緑地管理

除草剤3剤について適用性を検討し、実用性ありと判断した。(秋山晃輝・中山史菜)

22. 殺菌剤・殺虫剤の効果検定試験

(作物・特作、病虫・環境、野菜・花き、府中果樹研究所、病害虫防除所、小豆オリーブ研究所)

目的：新規開発農薬の防除効果と薬害について検討し、実用性を判定する。

＜委託元：香川県植物防疫協会、日本植物防疫協会＞

1) 野菜（殺菌剤）

(1) 17 剤の殺菌剤についてイチゴ、ブロッコリー、レタス、キャベツにおける防除効果と薬害を検討し、普及性を判断した。(吉田美優・片山貴博)

(2) 3 剤の殺菌剤について、ブロッコリーおよびキャベツにおける防除効果と薬害を検討する試験を実施したが、試験期間中に発病が確認されなかったため、評価ができず未了となった。(長尾洋輝・三浦靖)

2) 野菜（殺虫剤）

(1) 16 剤の殺虫剤について、イチゴ、ブロッコリー、ネギ、トウモロコシ、キャベツにおける防除効果と薬害を検討した結果、いずれの剤も効果があり薬害も認められなかったことから、普及性があると判断した。

(松本匠哉・中井清裕・川西健児)

(2) 3 剤の殺虫剤について、ブロッコリー、ナス、ハウレンソウにおける防除効果と薬害を検討した結果、ブロッコリーの 1 剤は効果が認められ、薬害も認められなかったことから、普及性があると判断した。ナスの 1 剤については、効果は認められたがその程度はやや低かった。ハウレンソウの 1 剤については、試験期間の対象害虫の発生が少なく、評価ができず未了となった。

(北尾美咲・鐘江保忠)

3) 果樹（殺菌剤）

(1) 10 剤の殺菌剤についてカンキツ、モモ、カキ、キウイフルーツにおける防除効果と薬害を検討した結果、すべての剤で防除効果があり薬害も認められなかったことから、普及性があると判断した。(生咲 巖)

(2) 1 剤の殺菌剤についてカンキツのドローン散布における薬害を検討した結果、果実品質や生育に影響はなかった。(生咲 巖)

4) 果樹（殺虫剤）

6 剤の殺虫剤についてモモ、カンキツにおける防除効果と薬害を検討した結果、すべての剤で防除効果があり薬害も認められなかったことから、普及性があると判断した。(生咲 巖)

5) 樹木類

1 剤の殺虫剤について、ベニカナメモチとヤブツバキにおける防除効果と薬害を検討した結果、いずれの剤も効果があり薬害も認められなかったことから、普及性があると判断した。

23. 新肥料の肥効試験

(作物・特作)

目的：新たに開発された肥料について、収量・品質に与える効果や慣行肥料との差異を明らかにし、新肥料普及のための資料とする。

＜委託元：香川県施肥合理化協会＞

1) 水稻、麦

水稻の肥効調節型肥料について、「コシヒカリ」を対象に 2 銘柄、「あきさかり」を対象に 4 銘柄、「ヒノヒカリ」を対象に 6 銘柄を検証した。

麦類の肥効調節型肥料について、小麦「さぬきの夢 2023」に対する全量基肥肥料 1 銘柄、追肥用肥効調節型肥料 4 銘柄の適用性を検証した。

(河原望遥・多田祐真・山地優徳)

24. ドローンによるブロッコリーの病害虫防除技術の検討

(病虫・環境)

目的：ブロッコリーを対象としたドローン防除技術の確立を目的に、病害虫防除効果および薬害の調査と農薬付着量の評価を基本に、農薬動態把握に基づくドローン防除技術の開発を目指す。

＜助成元：(一財) 野田共済会＞

1) ドローン散布と慣行散布による病害虫防除効果の比較

ブロッコリー露地栽培において、チョウ目害虫、黒すす病および花蕾腐敗病を対象にドローン散布と慣行散布による病害虫防除効果を比較した結果、一部の農薬を除き同等以上の効果があった。薬害は認められなかった。農薬の付着量は一部の農薬を除きほぼ同等だった。害虫を対象とした体系防除については、慣行散布と同等の防除効果があった。

(松本匠哉・中井清裕・吉田美優・片山貴博

・香西清弘・菰淵啓三)

25. 常温煙霧による施設イチゴ害虫防除技術の確立

(病虫・環境)

目的：施設栽培イチゴを対象とした常温煙霧による防除技術の確立を目的に、害虫防除効果および薬害の調査と

農薬付着量の評価を基本に、常温煙霧の防除技術の開発を目指す。
＜助成元：（一財）野田共済会＞

アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類に対して累計 8 剤の試験を行った結果、一部の農薬を除き防除効果が認められた。防除効果の慣行散布との比較では、一部の農薬を除き同等の防除効果だった。薬害は認められなかった。
（松本匠哉・中井清裕）

26. ウンシュウミカン「石地」の半樹別交互結実技術の確立

（府中果樹研究所）

目的：「石地」は温暖化に強い品種として導入されている一方、隔年結果性が問題となっていることから、安定生産を図るため、樹冠を主枝単位に遊休枝と結果枝に分けて交互に結実させる半樹別交互結実技術を確認する。
＜助成元：（一財）野田共済会＞

1) 着果程度が根中デンプン含量に及ぼす影響

半樹別交互結実法の 1 年目は、慣行摘果に比べて、仕上げ摘果ありで、翌年の着花程度と関連のある根中デンプン含量が多かった。

（多田寿和子・久保雅秀・山田英尚・秋山晃輝）

2) 半樹別交互結実が収量および果実品質に及ぼす影響

半樹別交互結実法の 1 年目は、慣行摘果に比べて、仕上げ摘果なしで収量が増加するものの、果実肥大のばらつきが大きかった。一方、仕上げ摘果ありでは収量がやや減少するものの、果実肥大が促進され小玉果が減少した。品質は、糖度がやや低下するものの、仕上げ摘果ありでクエン酸濃度の低下により糖酸比が向上した。

（久保雅秀・山田英尚・秋山晃輝）

27. 赤外線光照射によるオリーブ炭疽病の発病抑止効果の検討

（小豆オリーブ研究所）

目的：オリーブの炭疽病発生軽減に向け、近赤外線光照射による効果を検証する。

＜助成元：（一財）野田共済会＞

1) 新梢への近赤外線光照射による効果確認

マンザニロおよびミッシェンの新梢に近赤外線光を 2 週間間隔で照射したところ、炭疽病の発生がやや少ない傾向を示した。植物体内（葉）での抗酸化活性は、照射 30 分後に上昇が認められたが 24 時間後には処理前と同等になった。
（米澤晃子・山本美奈）

28. 国内産麦の研究開発支援事業

（作物・特作、病虫・環境）

目的：高品質小麦の開発に向け、耐病性に関する調査を行う。
＜（一社）米麦協会助成事業＞

1) 耐病性に優れた府県向け高品質小麦系統の開発と実用化

コムギ萎縮病汚染土壌で栽培したコムギ 7 品種、2 系統について ELISA 検定を実施し、同病害の感染率を調査した。
（片山貴博・吉田美優・相澤美里・多田祐真）

〔受託事業等（国、国研等）〕

29. 温室効果ガス抑制土壌調査事業

（病虫・環境）

目的：地球温暖化防止のため、営農活動による温室効果ガスの発生を抑制するとともに、土壌中に炭素をより多く蓄積することが求められていることから、炭素を中心とした土壌調査を実施する。

＜委託元：農林水産省中国四国農政局＞

1) 農地土壌炭素貯留等基礎調査

県内農地の定点 5 地点（水田、畑及び樹園地）及び農業試験場内の基準点 10 地点の合計 15 地点の土壌について、地表から深さ 30cm 程度までの層別の炭素貯留量等の調査を行った。場内基準点の有効土層の炭素量は、牛糞たい肥連用区が化学肥料単用区に比べて多くなったが、わら連用区ではわらの量に従って多くなった。

（平木孝典・松本匠哉）

2) 地力調査

前述の 15 地点において、地表から深さ 80cm 程度までの断面調査と土層別の試料採取を行い、理化学性について分析した。
（平木孝典・松本匠哉）

30. 農薬残留対策総合調査

（病虫・環境）

目的：水産動植物の被害防止に係る登録保留基準値および水質汚濁に係る登録保留基準値と環境中予測濃度（PEC）が近接している農薬等について、河川における濃度実態を調査する。
＜委託元：株式会社エスコ＞

1) 高瀬川の除草剤成分のモニタリング調査

高瀬川中の農薬の濃度実態調査を行った。対象農薬は、流域の水田での使用頻度の高い除草剤の 1 成分を選択した。

田植え前の 4 月 24 日から田植え終了後の 9 月 4 日まで、合計 27 回、3 地点でサンプリングを行った。

（香西清弘・菰淵啓三）

31. 花きの優良種苗、新品種種苗等の効率的な増殖に資する技術（ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業）

目的：花きの優良種苗を生産するために、栽培条件の違いが植物の生育に及ぼす影響を調査する。

1) 順化時期・期間の違いがラナンキュラス培養苗の定植後の生育に及ぼす影響

秋期の高温回避を目的に、順化期間の短縮がラナンキュラス培養苗に及ぼす影響について検討を行った結果、「あんずてまり」では、順化期間を20日程度に短縮しても、通常の30日順化と比較して定植時の葉数、最長葉長にほとんど差が見られないことが分かった。「春てまり」では、順化期間が短くなると定植時および定植後の最長葉長が短くなる傾向があったが、抽苔日は両区間でほとんど差が見られなかった。

（村口 浩・加畑真理）

2) 光源の違いがカーネーション「ミニティアラシリーズ」培養苗の生育に及ぼす影響

培養苗育成中にLEDと蛍光灯による光源の違いが生育に及ぼす影響を調査した結果、本試験において使用した蛍光灯型LED（サンレーライト：PF40-S22WT8-SI）は、カーネーション「ミニティアラシリーズ」の茎頂培養において現行の蛍光灯の代替として使用可能であるものの、光が既存の蛍光灯と同等の強さになるように留意する必要があると考えられた。

（村口 浩・加畑真理）

〔企画・営農研究課〕

32. 試験研究企画推進、研究情報管理技術の確立

目的：地域農業の展開に必要な技術情報の収集、分析、活用のための研究情報システムを充実し、効率的利用運営を行う。

1) 研究情報資料等の収集および管理

各書籍・文献等を受け付け、管理した。（中村雅彦）

2) 農業技術情報サービス

ホームページ等の情報ネットワークの運営・管理を行った。（中村雅彦、香川綾香）

33. 農業の機械化に関する研究

目的：本県特産農産物について、機械化の要望等に応じて調査および機械開発・改良を行うとともに、県内の栽

培条件に適した利用技術、作業体系を確立する。

1) 県特産農産物の生産性向上に関する研究

ニンニク及びタマネギ等の省力・軽労化に関する調査・研究・改良を行った。

ニンニクについては、野菜用半自動多条移植機（商品名：ちどりさん）を用いた先マルチ栽培の適応性について試験を行った。

また、収穫・調製作業の省力化を目的に、収穫の補助具の検討、ハサミ固定具や盤茎削り（根すり）機の効果検証を行った。

キウイフルーツの作業負担軽減に向け、アシストスーツの疲労軽減効果を確認した。（西村融典・中村裕彦）

〔病虫・環境研究課〕

34. 環境にやさしい農業推進事業

1) 青緑色粘着トラップによるミナミキイロアザミウマの誘引効果および圃場における密度低減効果の検討

半促成栽培の現地キュウリハウスにおいて、防除効果は判然としなかったものの、ミナミキイロアザミウマの初期発生を捉えることができた。（松本匠哉・中井清裕）

2) キクの高濃度炭酸ガス処理によるハダニ類防除

キクへの薬害確認とハダニの防除効果確認を目的に、高濃度炭酸ガス処理によるハダニ類防除試験を実施した。その結果、防除効果は高く、薬害も発生しなかった。

（中井清裕・松本匠哉）

35. 生産環境安定対策技術の確立

目的：本県の主要品目について、品質および収量の安定化を図るため、それぞれの品目の固有の病害虫防除および土壌管理、施肥設計に関する課題を解決し、安定生産に資する技術を確立する。

1) 病害虫総合防除技術の確立

市販予定の薬剤感受性簡易検定キットを用い、試験場ほ場のネギおよびアスパラガスで採取したネギアザミウマとイチゴで採取および室内維持系統のミカンキイロアザミウマについて従来法との比較を行ったところ、一部の薬剤を除いて同等の結果が得られることを確認した。

（松本匠哉・中井清裕）

2) 低投入持続型肥培管理技術の確立

アスパラガスにおいて、施肥量を減少させても、収量に変化はなかった。（中井清裕）

3) ドローンによる青ネギの病害虫防除技術の検討

青ネギ露地栽培の現地ほ場において、ネギアザミウマを対象にドローン散布と慣行散布による害虫防除効果を比較した結果、同等程度の効果が得られた。

殺虫剤と殺菌剤の混用散布試験では葉害は認められず、殺虫剤の防除効果は認められた。

(松本匠哉・中井清裕)

36. 病虫害発生予察

目的：病虫害防除所が実施する県域での巡回調査に併せて、定点での発生調査を実施し、発生予察事業のための情報提供を行う。

1) 病虫害発生予察事業

県予察ほ場における病虫害の発生状況を調査した。

調査対象作物(品種)は稲(「コシヒカリ」、「おいでまい」、「ヒノヒカリ」)、麦(「イチバンボシ」、「さぬきの夢2009」)、キャベツ(「おきな」)、タマネギ(「もみじ3号」)とした。

また、コナガの性フェロモントラップ、アブラムシの黄色水盤トラップを設置し、1月～12月にその半旬別捕獲数を調査した。

(中井清裕・松本匠哉・吉田美優・片山貴博)

37. 特殊病虫害防除対策

目的：農作物に大きな被害をもたらす病虫害について蔓延防止を目的とした有効な防除対策を検討する。

1) ブロッコリー栽培における高品質安定生産に向けた技術開発

黒すす病の伝染源として罹病残渣によるリスクが示された。県内のブロッコリー圃場からSDHI剤耐性菌を認め、病原菌遺伝子の変異部位を明らかにした。

SDHI剤耐性菌に対してセイビアーフロアブルの防除効果は高かった。花蕾腐敗病菌について培地による薬剤感受性検定を行った。

(吉田美優・片山貴博)

38. 肥料検査業務

目的：肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、普通肥料登録、特殊肥料生産届、肥料販売届等の受理や肥料取扱事業所に対する指導を実施する。

1) 肥料検査、届出件数等の実績

令和7年1月～12月の肥料検査、届出件数等は次のとおりであった。

(1) 肥料検査

普通肥料立入検査数	0件
特殊肥料立入検査数	3件

(2) 肥料登録届

・普通肥料

登録件数	1件
有効登録件数	26件
登録更新件数	1件
変更・失効等届出件数	0件

・指定混合肥料

生産届出件数	0件
変更・廃止等届出件数	0件
有効届出件数	1件

(3) 特殊肥料届出

生産(輸入)業者届出件数	2件(0件)
変更・廃止等届出件数	9件
有効届出(輸入)件数	277件(13件)

(4) 肥料販売業者届出

販売業務開始届出件数	10件
変更・廃止等届出件数	42件
有効届出件数	562件

(5) 特殊肥料報告

生産実績業者数/業者数	134件/277件
輸入実績業者数/業者数	2件/3件

(平木孝典・松本匠哉)

39. ダム水質調査

目的：公共用水域の水質を監視するため、県の水質測定計画に基づき、県内16ダムについて各4地点(上流、表層、底層、下流)、計64地点で年3回(5月、8月～9月、12月)水質を測定する。

1) ダム水質調査

ダム表層水のpH、DO、BOD、COD、SS、T-N、T-P、全亜鉛について測定した。(平木孝典・松本匠哉)

40. 環境と調和した土づくり対策事業

目的：県内の定点ほ場について、継続して土壌調査を実施し、農耕地土壌の実態と変化を把握して適正な土づくりの資料とする。

1) 土壌機能モニタリング調査

県内の農耕地に設けた3地点(水田、畑)で土壌化学性(T-C、T-N、可給態リン酸、交換性加里、交換性石灰、交換性苦土)を調査した。水田の3地点で可給態リン酸が基準値を超えていた。

重金属(0.1N塩酸抽出)のCd、Cu、Znは、いずれの地点も基準値を超過していなかった。

(平木孝典・松本匠哉)

【作物・特作研究課】

41. 普通作物の生産安定化技術の確立

目的：本県の稲・麦の収量・品質は気候の温暖化や異常気象の多発傾向の下で不安定となっている。そこで、気象変動に強い品種や栽培条件を検討し、収量・品質の高位安定化のための技術支援を行う。

1) 主要農作物（水稻、麦）奨励品種決定調査

(1) 基本調査および現地調査

【水稻】

- ・予備調査：8品種・系統
- ・本調査：7品種・系統

水稻では、115品種・系統を供試し、標準品種と比較して有望な品種・系統を見出した。現地調査では、1品種2系統を調査した。

【小麦】

- ・供試なし

【裸麦】

- ・供試なし (河原望遥)

2) 現場ニーズに対応する技術情報の提供

(1) 水稻・麦類作況情報の提供

主要奨励品種である、早期水稻「コシヒカリ」、普通期水稻3品種「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「おいでまい」、小麦「さぬきの夢2009」、はだか麦「イチバンボシ」について、定期的に生育調査を行い、その結果を随時作況試験情報としてホームページに掲載するとともに、関係機関への情報提供を行った。 (河原望遥・岡田彰夫)

(2) 「さぬきの夢2023」の栽培管理試験

麦類奨励品種に採用された小麦新品種「さぬきの夢2023」の基本的な栽培技術を検討するため、①播種期、②施肥量、③施肥体系の違いが生育及び品質に及ぼす影響を調査した。 (河原望遥)

42. 次世代さぬきうどん用小麦と温暖化対応水稻品種の開発

目的：さぬきうどん用小麦「さぬきの夢」の優れた特徴を維持しつつ、製粉性やグルテンを強化した後継品種を開発する。また、温暖化に対応した高温登熟性に優れる水稻品種を育成する。

1) 「さぬきの夢」後継品種候補となる新系統の育成

グルテンの強化を主な育種目標とし、系統の養成と特性評価・選抜を行った。交配は、令和7年4月に11組合せを実施した。

令和7年秋播において、次のとおり雑種集団を養成した。F₁世代は10集団、F₂世代は8集団、F₃世代は5集団、F₄

世代は6集団について集団養成した。

F₅世代として5組合せについて、当年産で穂選抜したF₄の1穂を1派生系統として合計940派生系統のグルテン遺伝子型の分析を実施し、グルテン遺伝子型が有望な組み合わせであった295派生系統をほ場に展開した（派生系統1年目）。F₆世代は7組合せ・101系統（派生系統2年目）を養成して系統選抜を行った。

F₇世代は3組合せ・117系統（派生系統3年目）、F₈世代は5組合せ・8系統（派生系統4年目）、F₉世代は1組合せ・1系統（派生系統5年目）、を養成して系統選抜を行うとともに、生産力検定試験に供試した。

(多田祐真・相澤美里)

2) 温暖化対応型水稻品種の育成

(1) 高温登熟性品種の育成

登熟期の高温耐性に優れ、本県の気候風土に適する高品質良食味品種の育成を目標とし、交配を2組合せで行い、F₄世代2系統を養成した。F₆世代28系統及びF₉世代は2系統を供試し、生産力検定（予備試験及び本試験）、高温登熟性検定、いもち病ほ場抵抗性検定及び系統選抜（DNAマーカーを活用して確認）を実施した。

また、併せて玄米の外観品質及び飯米の食味評価を行い選抜した。 (相澤美里・多田祐真)

43. 主要農作物の原原種、原種育成事業

目的：県内の水稻、麦類、大豆の主要品種について優良種子の生産および普及を促進するため、香川県主要農産物採種事業実施要領に基づき採種ほへの原種の供給を行う。また、採種ほにおいて主要農作物の優良な種子の生産を行うために必要な主要農作物の原種および当該原種の生産を行うために必要な主要農作物の原原種を確保するため、主要農作物の原種および原原種の生産を行う。

1) 水稻・麦類奨励品種の系統管理による保存および原原種の生産

水稻1品種（「ヒノヒカリ」）、麦2品種（「さぬきの夢2023」「イチバンボシ」）を養成して採種、保存した。

(岡田彰夫・河原望遥)

2) 採種計画に応じた原種の生産

水稻5品種（「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「おいでまい」、「オオセト」、「クレナイモチ」）、麦類2品種（「さぬきの夢2023」、「イチバンボシ」）、大豆1品種（「香川黒1号」）を養成して原種を生産し、県種子協会へ分譲を行った。

(岡田彰夫・河原望遥)

【野菜・花き研究課】

44. 環境保全型グリーン農業実証定着事業

目的：アスパラガス栽培では、栽培期間が同一圃場で多年に及ぶことから土壌状態を長期的に考慮した追肥が必要である。現状、栽培暦に基づいた施肥管理が行われているが、一般的に過剰施肥傾向である。加えて追肥は月1回手作業で行われており労力がかかる。そのため、アスパラガスの土壌診断を継続的に実施し、圃場ごとに必要な成分量を設計することで環境負荷の低減と適切な追肥の実現を目指す。併せて、新緩効性肥料を使用する新追肥体系を検証することにより、追肥の省力化を実現する。

1) 土壌診断に基づくアスパラガスの省力的かつ環境にやさしい施肥体系の実証

アスパラガスを栽培している38圃場を対象に、詳細な年2回の土壌診断を行ったが、収量への影響は確認されなかった。肥効調節型肥料による新追肥体系について、年間の追肥回数を削減した肥料設計を作成した。

(藤井詩乃・村上裕一・池内隆夫・中井清裕)

45. 野菜生産における省力安定化技術の確立

目的：担い手農家の規模拡大や経営安定のためには、作柄の不安定要素や時期的な労力集中を軽減するための技術開発が必要である。そのため本県の主要品目について、それぞれの課題を解決し、生産性向上のための技術を確認する。

1) イチゴの生産安定と品種育成

(1) 飽差 (VPD) 制御がイチゴ品種“さぬき姫”、“女峰”の生育と収量に及ぼす影響

本研究では飽差制御に対する応答の品種間差異を評価した結果、高湿度条件が収量へ負の影響を及ぼした可能性が推察された。このため次年度以降は、制御パラメータの再調整を通じて環境制御の最適化を図り、収量最大化に向けたより精緻な制御体系を構築する必要がある。

(伊藤博紀・伊藤彩)

2) アスパラガスの生産安定と品種育成

これまでの結果から有望であった「さぬきのめざめ2021」の多年生株の収量性を評価し、これまでと同様に優良と判断された。また、本系統については、現地試験を開始しており、その収量性を確認した。

(村上裕一・藤井詩乃・池内隆夫)

3) ブロッコリーの生産安定技術の確立

年内どり、年明けどり2品種において、慣行肥料と混合堆肥複合肥料を施肥した結果、多少の差異はあるものの、慣行区と同様の収量・品質が得られた。また、同様に年内どり、年明けどりにおいて、作業の省力化を目的とし

て牛糞ペレット堆肥と混合堆肥複合肥料を用いて栽培を行った結果、どの試験区でも同様の収量・品質が得られた。

(小松奈央・伊藤 彩)

4) ニンニク安定生産技術の開発

(1) 輸入種子の検討

輸入種球について、異なる施肥量を用いて、不結球の発生率を確認した。

(村上裕一・池内隆夫)

(2) ニンニクの系統選抜

異なる性質を示す系統から選抜し、有望な系統を評価した。選抜系統の現地適応性についても検討した。

(村上裕一・池内隆夫)

46. 花き類の高品質安定生産技術の確立

目的：花きの生産振興を図るためには、本県の気象条件等を最大限生かし、土地生産性の高い品目について、品質および生産性の向上を図る必要がある。そのため、優れた経済品種を育成するとともに、収益性、省力化に主眼をおいた栽培技術の確立を図る。

1) 主要花きの高品質化と安定生産技術の確立

(1) カーネーションの生産性向上試験

「ミニティアラ」10品種の生育特性および花色安定度の調査を実施し、優良系統の選抜を行った。

(樫林美穂・浜田佳代子)

(2) ラナンキュラスの促成栽培技術の確立

「てまりシリーズ」11品種の栽培特性調査を行った。

(樫林美穂・浜田佳代子)

(3) マーガレットの安定生産技術の開発

マーガレットの安定生産に向けて、レイズドベッドにおける適切な水分管理について検討を行ったところ、かん水量の違いによる収量および品質に影響はなかった。

(樫林美穂・浜田佳代子)

2) 花き新品種の育成

(1) カーネーション新品種の育成

2022年に交配により得られた「ミニティアラ」系の実生について、4次選抜を実施した。

(樫林美穂・浜田佳代子)

(2) ラナンキュラスの新品種の育成

2016年から2021年にかけて交配、選抜した紫系統2系統について、2年目の収量および特性比較調査を行った。

(樫林美穂・浜田佳代子)

[府中果樹研究所]

47. 果樹の品種開発とその普及定着に向けた安定生産技術の確立

目的：県が推奨する「さぬき讃フルーツ」の生産を推進するため、オリジナリティ豊かな品種を開発するとともに、消費者に求められる高品質な果実を安定的に生産・供給するための技術や、生産者の高齢化や世代交代に対応した低コスト技術、高付加価値技術を開発する。

1) 新商品開発に向けた新品種の育成

(1) 新品種の育成

ア キウイフルーツ

県オリジナル交配系統の雌雄判別を実施した。

香川大学と共同育種で選抜された3個体について栽培性、果実品質等の調査を行い、いずれも継続調査とした。(中山史菜)

イ カンキツ

着果のみられた8系統について調査を行い、対照品種の「小原紅早生」と比較を行ったところ、6系統が着色良好、高糖度・高酸傾向であった。

(久保雅秀・山田英尚・秋山晃輝)

(2) 系統適応性検定試験

ア 常緑果樹

・カンキツ第12回系統適応性検定試験では1系統について調査を行った。中止という判断となり終了した。(久保雅秀)

・ビワ第6回系統適応性検定試験では、場内および現地1か所において3系統について調査し、1系統を中止、ほか2系統は継続調査とした。(秋山晃輝)

イ 落葉果樹

・モモ第10回系統適応性検定試験では、2系統について調査を行い、いずれの系統も継続調査とした。(中山史菜)

・ブドウ第116回系統適応性検定試験では、3系統について調査を行い、いずれも継続調査とした。(福田哲生)

・カキ第9回系統適応性検定試験では、3系統について調査を行い、いずれも継続調査とした。(福田哲生)

(3) 有望品種の選抜

ア 常緑果樹

カンキツ8品種、ビワ5品種について、収量性や果実品質等について比較検討を行った。

(秋山晃輝・久保雅秀)

イ 落葉果樹

モモ10品種、カキ5品種、ブドウ10品種、キウイフルーツ28品種について収量性や果実品質等について比較検討を行った。(福田哲生・伊賀悠人・中山史菜)

2) 品種に対応した安定生産技術の確立

(1) 常緑果樹の高品質安定生産技術の確立

ア ウンシュウミカン

ウンシュウミカン9品種について場内での生育ステージ、果実肥大および時期別果実品質について調査した。果実肥大は平年並み、果実品質は、夏季は高糖度、高酸傾向であったが収穫時には平年並みとなった。(秋山晃輝・久保雅秀・山田英尚)

イ 中晩生カンキツ

中晩生カンキツ2品種について場内での生育ステージ、果実肥大および時期別果実品質について調査した。「不知火」「せとか」とともに果実肥大は平年並みであり、果実品質は「せとか」は平年並み、「不知火」は高酸傾向であった。(秋山晃輝・久保雅秀・山田英尚)

「不知火」の水ぐされ軽減試験について、袋の種類について検討を行ったところ、袋の種類による水ぐされ発生に大きな差は確認されなかった。

(久保雅秀・山田英尚・秋山晃輝)

ウ ビワ

ビワ7品種について、場内での生育ステージや生理障害の発生等について調査した。平年と比べて生育が遅れ、果実品質は平年並みであった。(秋山晃輝)

「なつたより」は緑斑症の発生が多く見られることから、小林製袋(株)社製の新果実袋について県内各産地で慣行袋と比較を行った。その結果、熟期が遅れ、それによる緑斑症の発生抑制効果がみられた。また、果実品質に差はなかった。(秋山晃輝)

(2) 落葉果樹の高品質安定生産技術の確立

ア ブドウ

「ピオーネ」へのアブシジン酸処理は、無処理区に比べて成熟期に良好な着色性を示すことを明らかにした。(福田哲生)

イ キウイフルーツ

県オリジナル品種において、アメリカ産花粉200倍、250倍とニュージーランド産花粉250倍、333倍を用いて人工授粉した場合の結実率、果実品質等を比較した。花粉発芽率のやや低いアメリカ産花粉でもニュージーランド産花粉と同程度の果実品質が得られた。(伊賀悠人)

ウ モモ

果肉障害「みつ症」対策として、「なつおとめ」でマルチ敷設と機能性果実袋の比較試験を実施し、いずれもみつ症軽減効果は得られなかった。マルチ敷設では、糖度が高く、果皮の着色が改善した。(中山史菜)

エ ナシ

「幸水」において、溶液受粉を行った場合、慣行の粉末受粉より結実率が低くなるものの、摘果を行うため、最終着果量への影響はなかった。(中山史菜)

(3) 土作り技術と根域管理

高 pH 土壌を酸性に矯正する資材「サンドセット」において、添加量に応じて土壌の pH は下がるものの、EC が極端に高まることが認められた。

加温栽培「シャインマスカット」の 3 種類の台木について、根量、根中デンプン含量、細根活性を比較した。根量が多く細根活性が高い台木は、地上部の生育および果実品質が良いことが認められた。(多田寿和子)

(4) 新しい病害虫管理技術

カンキツにおけるドローン散布において、ハダニ類防除以外をドローンの登録農薬のみで年間の防除体系を組み、各病害虫に対する効果を検討したところ、ほとんどの薬剤について防除効果が認められた。

カンキツのナシマルカイガラムシに対する効果を検討したところ、アラニカルブ水和剤、ピリフルキナゾン水和剤およびスルホキサフロル水和剤はやや低いものの防除効果が認められた。

ビワキジラミに対する袋掛け前散布は、ピリダベン水和剤、スピロテトラマト水和剤、クロチアニジン水和剤、トラロメトリン水和剤、ピリダベン水和剤とクロチアニジン水和剤の混用散布およびピリダベン水和剤とスピロテトラマト水和剤の混用散布は防除効果が認められた。

カキ炭疽病に対する効果を検討したところ、キャプタン水和剤とベノミル水和剤は高い防除効果が認められたが、キャプタン水和剤は果実に薬害が生じた。チウラム水和剤は防除効果が認められた。

モモせん孔細菌病に対する効果を検討したところ、ストレプトマイシン水和剤は防除効果が認められ、オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤はやや低いものの防除効果が認められた。(生咲 巖)

48. 果樹等作物病害虫発生予察事業

目的: 植物防疫法に基づき、病害虫の発生状況を把握して発生と防除に関する情報を提供するなど、発生予察事業を実施する。府中果樹研究所では果樹病害虫の発生状況調査を分担、実施する。

1) 果樹等作物病害虫発生予察事業

病害では少雨傾向であったため多発したものはなく、虫害では、カンキツのミカンハダニとモモのハダニ類、共通害虫である吸蛾類とチャノコカクモンハマキの発生が多かった。(生咲 巖)

49. 「県産レモン」産地倍増化事業

目的: 近年、若手生産者を中心にレモンの生産意欲が高まっていることから、本県においても県産レモンの生産振

興とブランド化を図ることとしている。しかし、低温に弱いレモンの栽培適地の把握や栽培技術の確立ができていないことから、栽培可否や収穫時期の目安を示す「適地マップ」の作成と栽培技術の体系化を行う。

1) 適地マップの作成

過去 18 年分の気温データや 6 年度に実測した 20 カ所の気温データをもとに西讃地域版の適地マップ (50m メッシュ) を作成するとともに、高松地域版の作成に向けて 20 カ所に気象観測装置を設置して、冬季の気温データを測定した。(久保雅秀・山田英尚・秋山昂輝)

2) 栽培マニュアルの作成

(1) 「アレンユーレカ」における生育調査

四季咲き性のあるレモンの発芽や開花の時期・程度、開花時期別の果実肥大の推移を調査した。その結果、5 月及び 6 月に開花した果実が大半を占めるとともに、7 月以降に開花した果実は、秋季の降雨量に左右され、降雨の多い年は 12 月に収穫可能な大きさに達することが分かった。(久保雅秀・秋山昂輝・山田英尚)

(2) 「璃の香」における生育調査

時期別に搾汁率の調査を行ったところ、盆明け以降に収穫の目安である 20% 以上を満たし、その後は 30% 前後で成熟期まで推移すると考えられた。また、摘果の強度は、搾汁率に影響を及ぼすことはなかった。

(久保雅秀・秋山昂輝・山田英尚)

(3) レモンの貯蔵条件の把握

短期貯蔵を目的にコンテナ単位の包装方法について比較したところ、有孔ポリ袋が無処理に比べて減量歩合や腐敗果率が少なかった。また、長期貯蔵を目的に収穫時期の異なる果実を用いて微細孔ポリ袋の個装し、7 月まで貯蔵を行ったところ、12 月および 1 月収穫の果実が 2 月および 3 月に収穫する果実に比べて腐敗果率が低かった。(久保雅秀・秋山昂輝・山田英尚)

(4) 施肥基準の作成

県内現地圃場 7 か所において、施肥量と土壌中の成分含量の推移を調査した。施肥の違いが土壌化学性および収量に及ぼす影響は判然としなかった。

現地水田転換圃 6 か所において、土壌物理性を調査した。水田土壌に花崗岩風化土を客土し混和した圃場では土壌硬度および飽和透水係数が低かった。

(多田寿和子)

[小豆オリーブ研究所]

50. オリーブの安定生産技術の開発

目的：近年、県外でオリーブ栽培に取り組む事例が急増しており、今後県産オリーブの優位性を維持し続けるためには、これまで以上に品質や生産性の向上が重要となっている。

そこで、毎年安定して果実生産を行うとともに、高品質なオイルを生産できるよう安定生産技術の開発を図る。

1) 連年安定生産技術の開発

(1) 整枝せん定の改善による安定生産

縮伐処理を5年間実施したのちに縮伐樹を伐採した園地の収量を調査し、縮伐処理を行うことによって樹冠形成と収量確保の両立が図れることを確認した。

(川原清剛・山本実奈)

2) オリーブオイル高品質化対策

(1) オリーブオイル品質向上のための土壤水分管理技術

多かん水処理の影響を調査したが、オイルの採油率や官能評価には大きな差が見られなかった。

梅雨明け後の定期的なかん水処理により、新梢伸長量が増加し、樹冠容積の増加率が高くなった。

(川原清剛・山本実奈)

3) 病害虫防除対策の検討

(1) 害虫の発生状況調査

予察灯におけるカメムシ類の誘殺数は、チャバネアカカメムシ（ヒメチャバネ含む）は8月上旬まで低く推移し、9月中旬にピークとなった。アオクサカメムシは発生が認められず、ツヤアオカメムシおよびクサギカメムシの発生も少なかった。

予察灯におけるハマキムシ類の誘殺数は、マエアカスカシノメイガは平年並みの発生量で、春季は3月下旬がピーク、秋季は平年よりやや遅く10月中旬以降確認された。そのほかは、チャノコカクモンハマキが1頭であった。

県内11か所（東讃：1か所、小豆：6か所、中讃：2か所、西讃：2か所）における炭疽病の発病果率の平均は、9月中旬が1.1%、10月中旬が2.4%、下旬が8.9%と徐々に増加した

(米澤晃子)

(2) 炭疽病感受性の評価

「香オリ3号」と「香オリ5号」の圃場での炭疽病の発生は、11月下旬時点で認められなかった。「ミッシェン」と「マンザニロ」の発病果率がそれぞれ39.8%と27.3%であったことから、「香オリ3号」と「香オリ5号」は炭疽病に対して感受性が低いと考えられた。そのほか、11月中旬時点で10品種について発病が認められなかった。

(米澤晃子)

4) 品種に関する試験

(1) 有望品種の選抜

スペインから導入した炭疽病抵抗性等に優れる3品種の定植1年目の生育状況を調査した。

(川原清剛・山本実奈)

51. オリーブオイル官能評価業務

目的：県内で栽培・収穫・採油されたオリーブオイルの官能評価を行うことにより、県産オリーブオイルの品質向上の基礎資料とするとともに、生産者への指導を行う。

1) オリーブオイル官能評価に関すること

(1) 依頼分析の実施

75点の県産等オリーブオイルの官能評価依頼分析を受託、実施した。

(木下和也)

(2) 官能評価員研修の実施

官能評価員24名に対し4月、6月、7月、10月に評価技術の向上および評価の平準化を目的に研修を実施した。内部精度管理を目的に1月に強度確認試験を実施した。

(木下和也)

(3) 官能評価員技能評価試験の受験

官能評価員24名が4月、7月、10月、1月にアメリカ油化学会が実施する技能評価試験を受験した。

4月、5月にインターナショナル・オリーブ・カウンシルが実施する技能評価試験を受験し、試験結果により前年度に引き続き8年連続で認定パネルとなった（認定期間は令和7年12月1日～8年11月30日まで）。2月には翌年度の受験申請を行った。

(木下和也)

(4) ISO/IEC17025：2017の認定更新

令和元年3月に取得した「インターナショナル・オリーブ・カウンシルの定めるバージンオリーブオイル官能評価法に基づくバージンオリーブオイルの欠陥の評価および、ポジティブな特性評価」を範囲とした試験所品質マネジメントシステムの運営における技術的能力についての認定に関する更新審査を12月に受け、合格となった。

(木下和也)

2) オリーブオイル高品質化対策

(1) 高品質化サポート業務

優良オイルの国際品評会への出品について指導・助言を行った。採油技術者に対し高品質化及び問題改善を目的に技術指導を実施した。

(木下和也)

52. オリーブに関する情報発信業務

目的：オリーブの試験研究機関として、香川県のオリ

ブに関する様々な情報を発信し、ブランド力の強化を図る。

1) オリーブに関する情報発信

(1) ホームページによる情報発信

オリーブの開花、生育状況、害虫の発生状況に関するページの更新を定期的に行い、情報発信の回数を増やした。(中西正憲)

(2) 展示室を用いた情報発信

当研究所内に設置された展示室において、本県のオリーブの歴史や最新の技術・研究成果などを、映像等を交えて来場者に分かりやすく説明した。

また、展示室パネルを最新情報に更新するとともに、病害虫の標本を充実させ、視察や研修で見学できるように改善した。(中西正憲)

2) 職員・県民等に対するオリーブに関する研修

オリーブ・オリーブオイルに関する講習会、視察対応のほか、県民への理解を促進するため、香川大学、長寿大学等での研修会を行った。

(中西正憲・川原清剛・米澤晃子・木下和也・山本実奈)

[園芸総合センター]

53. 主要園芸作物の原種養成

目的：主要な園芸作物の安定生産のため、県育成品種や導入した有望品種について、組織培養技術などを利用して、原原種や原種の養成・増殖を行い、優良種苗の安定供給を図る。

1) 花き優良種苗の養成

組織培養技術などを利用し、花き4品目の優良種苗を養成した。

カーネーションは、県育成品種6品種(「ミニティアラピンク」「ミニティアラコーラルピンク」「ミニティアラライラック」「ミニティアラミルクホワイト」「ミニティアラスパークリング」「ミニティアラエメラルド」)について、原種120本を養成した。

また、「ミニティアラサニー」は前年度養成した優良種苗について、現地試験を実施した。

マーガレットは、在来系統など3系統について、原種600本を養成した。

キクは、盆小ギク3品種「やよい」、「いさはや」、「あけみ」について、原種1,500株を養成した。

ラナンキュラスは、県育成品種7品種(「春てまり」、「雪てまり」、「小春てまり」、「恋てまり」、「れもんでまり」、「桜てまり」、「あんずてまり」)について原種2,500球を

養成した。(村口 浩・藤田 究・藤原尉嗣)

2) 野菜優良種苗の養成

組織培養技術などを利用し、野菜2品目の優良種苗(培養苗および原種)を養成した。

サツマイモは、「高系14号」の優良系統をもとに3,000本の培養苗を養成した。

イチゴは、「女峰」200株、「さちのか」50株、「さぬき姫」750株を養成した。また、栽培施設において、高温対策として、換気性能の向上、統合制御装置の導入による見える化等改修を行った。

(村口 浩・藤田 究・藤原尉嗣)

3) 果樹優良種苗用母樹の養成

果樹は、3品目の優良種苗用原母樹を養成した。

ブドウ原母樹は、「ピオーネ」15kg、ピオーネ用台木30kgを養成した。

キウイフルーツ原母樹は、「香緑」、「香粹」、「さぬきゴールド」、「さぬきエンジェルズスイート」、「香川UPーキの1～5号」、「さぬきエメラルド」、「さぬき花粉力」、「シマサルナシ」の12品種、計22鉢を養成した。

オリーブ原母樹は「香オリ3号」15kg、「香オリ5号」11kgの養成を行った。

(村口 浩・藤田 究・藤原尉嗣)

54. 園芸作物の栽培展示

目的：生産者の技術向上と経営の安定化を図るため、農試育成品種や導入品種の栽培展示、新しい管理技術や資材の実証展示を行う。また、花と緑の快適環境づくりや暮らしに活かした花づくりへの関心を高める事例展示を行う。

1) 組織培養植物の展示

組織培養技術の研修や展示用に、カーネーション、キク、マーガレット、サツマイモ、イチゴを組織培養した。

茎頂培養の培地は、マーガレットに農事試験場培地、カーネーションにHolley&Baker培地、キク、サツマイモにMS培地、イチゴにWhite(修正)培地を使用した。継代培養の培地はMS培地を使用した。

組織培養植物は、25℃、2,000lux、17時間日長の培養条件で保存・展示した。(村口 浩・加畑真理)

2) 鉢花類の栽培技術と品種の展示

県内で栽培されている鉢花類の主要品目と新規品目(新品種含む)を中心に展示した。

1・2年草は、パンジー、サイネリアなど、宿根・多年草は、ガザニア、クリスマスローズなど、球根類は、球根ベゴニア、シクラメンなど計18品目を栽培展示した。

観葉植物は、アンスリウム、スパティフィラムなど24

品目を、熱帯果樹は、マンゴー、アボカドなど8品目を栽培展示した。花木類は、ハイビスカス、ブーゲンビレアなど9品目を、ラン類については、ファレノプシス、カトレアなど11品目を栽培展示した。

(大川俊彦・古市 智)

3) 切花類の栽培技術と品種の展示

宿根草や1・2年草の切花類について、県育成品種や最近の新しい品種などを中心とした品種展示および栽培技術展示を行った。

カーネーション: 県育成品種「ミニティアラピンク」、「せとのはつしも」など32品種を用いて、冬切り栽培(ロックウール養液栽培)を行った。

ガーベラ: 「アロハ」など4品種を用い、周年切り栽培(ロックウール養液栽培)を行った。

バラ: 「マダムサチ」など18品種を用い、周年切り栽培(ロックウール養液栽培)を行った。

マーガレット: 「在来種」など9系統の系統比較展示を行った。

ラナンキュラス: 県育成品種「小春てまり」など9品種を用いて冷蔵促成栽培を行った。また、高設ハンモック栽培と使用済み培土を利用した栽培について、土壌蒸気消毒の被覆ビニールの包み方による温度上昇時間の比較試験を行った。

その他、アスター、キンギョソウなど16品目24品種を用いて栽培展示を行った。(古市 智)

4) 花木類の品種展示および観賞用展示

花木の品種見本を栽培展示するとともに、鉢物花木の展示をした。

(1) 見本展示

- ①ヤマアジサイ: 「剣の舞」他14品種
- ②西洋アジサイ: 「ミセス・クミコ」他28品種
- ③オリーブ: 「ルッカ」他4品種
- ④クルメツツジ: 「朝露」他50品種
- ⑤サクラ: 「紅枝垂桜」他11品種
- ⑥サツキ・アザレア類: 「一生の春」他15品種
- ⑦タベブイア(イペー): 1品種
- ⑧ツバキ・サザンカ: 「金毘羅弁慶」他96品種
- ⑨ハナウメ: 「八重寒紅」他99品種
- ⑩ロウバイ: 「素心」、「満月」の2品種
- ⑪バラ: 「ローテローゼ」他22品種
- ⑫盆栽: クロマツ、ハナウメ、オリーブ等

(松本英治)

(2) 展示場展示

- ①サツキ類: 4月17日～5月11日
- ②ヤマアジサイ: 5月11日～6月8日
- ③ハナショウブ: 5月22日～7月3日
- ④アジサイ: 6月8日～6月29日

⑤アサガオ: 7月4日～9月15日

⑥ホオズキ: 8月25日～10月11日

⑦鑑賞ギク: 10月26日～12月5日

⑧盆梅: 1月10日～3月15日

⑨松盆栽: 3月15日～3月31日

⑩オリーブ、真柏盆栽: 3月15日～3月31日

(松本英治)

5) 花壇展示

花壇の栽植提案、また、来園者に対する花の魅力のPRのために展示を行った。

夏～秋花壇は、サルビア、カンナなど5品目で装飾した。秋～春花壇は、ビオラ10品種で花色を変えて飾花した。特にロータリー中央のフラワータワー(5m)には7品種7色のビオラで飾花し、園内のフラワータワー(2.5m)5基、フラワーボール5基、フラワーウォールもビオラで装飾した。ハーブ花壇では、26品目の栽培展示を行った。

また、アガベ、ユッカなどの多肉植物9品目で「ロックガーデン」の事例展示を行った。(古市 智)

55. 研修指導

目的: 県民の花づくりに対する知識を深めてもらうため、休日を含めて施設を開放するとともに、園芸相談を実施する。

来訪者のために、センター内掲示板やデジタルサイネージ、ホームページ等で場内の見所情報などを提供する。

また、特別支援学校生の勤労体験を通じた「働く力」等の充実・発展のための支援や、中学生の進路学習の一環としての職場体験学習に協力する。

1) 園芸相談の実施

花木の年間の管理や草花・球根類の夏期の管理、病害虫防除のほか、忌避効果のある植物の事例や管理方法など、約300件の園芸相談を実施した。

(松本英治・古市 智・加畑真理)

2) 来訪者への情報提供

(1) 県ホームページでの情報提供

ハナウメ、サクラ等の開花情報等について県ホームページで情報発信した。(42件)

(2) センター内掲示板での情報提供

県ホームページより詳細に、温室内切り花・鉢花の作型や生態、見本園などの見どころ等を植物案内板等により提示した。(86件)

(3) 空港周辺施設連絡会公式Instagramでの情報提供

園内の展示場、草花、花木等の見頃・見所情報などを

発信した。(49 件)

(4) テレビ、ラジオ等での広報

ロウバイ、ウメ等の広報をテレビ、新聞等を通じて実施した。(5 件)

(松本英治・古市 智)

3) 研修視察および一般開放

香川中部支援学校の現地実習、高松市立香東中学校の職場体験学習など 1,138 人に対応した。

一般開放では、シニア層を中心とした園芸愛好家、グループ、社会福祉施設のほか、園内の植物を写真に収めたりスケッチする来訪者が多く訪れた。

特に、休日や学校の春・夏休み等の長期休暇時期には、子供を含む家族連れも多く訪れた。

(大川俊彦・松本英治・古市 智)

56. 園芸総合センター整備事業

目的: 花き等の研究拠点施設としての機能に加え、「花と緑に触れ合う、憩い・学びのさぬきフラワーガーデン」をコンセプトとし、価値ある施設としてのプロデュース運営や情報発信の強化、空間展示の充実等により、幅広い年齢層の集客に努め、花のある暮らしの提案や賑わいづくりを推進する。

1) 施設・備品類の整備

展示温室の再整備計画の策定に向けた協議等を実施した。

また、本館改修工事に着手したほか、セミナー室用什器類の整備、人工気象機の導入を行った。合わせて、来園者の利便性向上のため、ロスフラワーの販売に向けた備品類(自動販売機等)、園内看板類の刷新、デジタルサイネージの整備等を実施した。

2) 季節に合わせた展示装飾の実施

令和6年度に導入された立体花壇について、ビオラ、ペチュニア、ベコニア、ケイトウ、コリウス、アイビーを使用して季節ごとに展示を行った。また、花手水等意匠を凝らした展示装飾や、ハンギングバスケット等空間を活用した演出、食虫植物の展示、季節行事に合わせた園内装飾等を行った。

3) 情報発信、各種イベントの実施

公式 Facebook アカウントの新規開設や、令和6年度に開設した公式Instagramアカウントを活用した定期的な情報発信、他課及び高松空港周辺施設連絡会と連携した情報発信を行った。

また、来園者の花き園芸や植物に対する関心を高めるため、各種イベントを開催した。

(1) Instagramフォローありがとうキャンペーン

令和6年度に開設した公式Instagramのフォロワー数を増加させることを目的に、キャンペーン期間中に来園して、公式Instagramをフォローされた方に、ミニティアラちゃんのオリジナルグッズをプレゼントする企画を実施した。

開催期間: 5月1日～6日

フォロワー増加数: 111名

(2) 梅雨どき ドキドキ かくれんぼ

父の日に合わせ、園内に隠された引換券を探し出す方法で、選べる記念品をプレゼントする企画を実施した。

開催期間: 6月13日～15日

参加者数(ノベルティ引換数): 124名

(3) わくわくサマーフェア

(植物クロスワードパズル、フラワータワーぬり絵&デザイン、お花の観察会)

夏休み期間中のイベントとして、園内を巡りながら季節の花や植物に親しんでもらう「植物クロスワードパズル」、参加型の企画として、2.5m フラワータワーのデザイン公募「フラワータワーぬり絵&デザイン」、子どもをターゲットとした「お花の観察会」を開催した。

開催期間: 7月21日～8月31日

(お花の観察会: 8月9日)

フラワータワーデザイン応募数: 18作品

お花の観察会参加者数: 20名(6組)

(4) 秋のおさんぽスタンプラリー

～ぶらり園内散策～

園内の散策をより楽しんでもらうためのイベントとして、版画のようにスタンプを重ねていき、カラフルな1つの絵を完成させるスタンプラリーを開催した。

開催期間: 9月19日～11月24日

参加者数: 1,200名

(5) 園芸教室(ハンギングバスケット作り)

花の装飾に関心のある方を対象に、ハンギングバスケット作りを開催した。作品はさぬきフラワーガーデン内に2週間程度展示した。

開催日: 10月13日

申込件数: 235件(338名)

参加者数: 10名(5組)

(6) 2025みんなのおもいでツリー

さぬきフラワーガーデン園内のメインストリートに開花終了後の杉作りの小菊をクリスマスツリーに見立てて設置し、2025年に園内で撮影された写真の展示を行った。

展示期間: 12月12日～28日

展示写真枚数: 約70枚

(7) 梅のPRの実施

(梅園ガイドマップの作成・来園者への配布、SNS広告を活用した情報発信)

約100品種・130本を誇るさぬきフラワーガーデンの梅園の魅力を伝えるため、職員で選んだ「おすすめの梅 23選」とその解説・植栽マップが載ったオリジナルの「観梅ガイド」を作成し、来園者への配布を行った。

開催期間：2月～3月

(SNS広告配信：2月13日～3月15日)

(8) 樹木医と歩く梅園ガイドツアー

梅園の管理を行う樹木医の担当研究員が、さぬきフラワーガーデンにある梅の品種の特徴等を説明するガイドツアーを開催した。

開催日時：2月18日14:00～、
2月28日11:00～/14:00～、
3月8日14:00～、
3月18日11:00～/14:00～

(9) 花あつめスタンプラリー

園内の見どころスポットを回りながら8つのスタンプを集め、オリジナル図鑑を作るスタンプラリーを開催した。

開催期間：3月19日～31日

参加者数：1,200名

(10) しだれ桜ライトアップ

令和6年度に引き続き、三春滝桜の子孫樹となる当園のしだれ桜の認知度向上のため、夜間ライトアップイベントを開催した。

開催期間：3月26日～28日

来園者数：5,700名

(大川俊彦・加畑真理)

(1) 耐性菌等調査事業

イチゴ炭疽病菌 56 菌株を対象に、3 剤について耐性菌検定を行った。(北尾美咲・長尾洋輝)

(2) 抵抗性害虫等調査事業

ミカンハダニ 14 個体群を対象に、8 剤について抵抗性検定を行った。(長尾洋輝・北尾美咲・西川辰洋)

(3) 保毒虫検定事業

ヒメトビウンカを対象に RSV ウイルスの保毒虫検定を行った。ELISA 検定で 2.5%と平年に比べ低いと判断した。(井之川育篤・鐘江保忠)

(4) 病虫害同定・診断

年間 202 件の農業改良普及センター、JA、農業者等からの病虫害診断依頼に対応した。

3) 病虫害発生予察情報

発生予察予報を 11 回、特殊報を 1 回(チュウゴクアミガサハゴロモ)、注意報を 1 回(オオタバコガ)、調査速報を 4 回(ヒメトビウンカ RSV 検定、シロイチモジヨトウ薬剤感受性検定、ミカンハダニ薬剤感受性検定)、技術情報を 6 回、麦類赤かび病に関する情報を 5 回発表し、HP などにより情報を提供した。

(三浦 靖・井之川育篤・長尾洋輝・北尾美咲)

4) 病虫害防除員の設置・活動

病虫害防除員延べ 39 名(普通作 8 名、果樹 8 名、野菜・花 19 名、特殊調査 4 名)を設置し、対象となる病虫害の発生状況報告を受けたほか、防除指導および農薬安全適正使用の推進を行った。また、本年度新規に委嘱された病虫害防除員を対象とした研修会を 5 月 15 日に実施した。(西川辰洋)

[病虫害防除所]

57. 発生予察関係

目的：植物防疫法に基づき、病虫害の発生状況を把握して発生と防除に関する情報を提供するなど、発生予察事業を実施する。

1) 病虫害発生予察事業

18 作物等の 205 病虫害(普通作物 2 作物の 40 病虫害、果樹 5 作物の 60 病虫害、野菜・花 11 作物の 99 病虫害、作物共通 6 害虫)について、それぞれの発生状況を把握するのに適した時期に定点および巡回調査や、予察灯等による調査を実施した。

(三浦 靖・井之川育篤・長尾洋輝)

2) 病虫害の診断および生態調査

58. 防除指導関係

目的：植物防疫法に基づき、植物防疫あるいは防除に関する企画等を実施する。

1) 病虫害防除方針策定

香川県主要農作物病虫害・雑草防除指針を農業経営課と連携して策定した。

主要農作物防除体系策定の指導にあたった。

(森 充隆・三浦 靖・鐘江保忠・小野壮一郎

・井之川育篤・長尾洋輝・北尾美咲・西川辰洋)

2) 特殊病虫害侵入防止対策事業

国が指定した 21 種の侵入警戒有害動植物について侵入調査を行った結果、トマトキバガの誘殺を確認した。その他 20 種の侵入警戒調査では、対象となる病虫害は確

認められなかった。(長尾洋輝・北尾美咲・西川辰洋)

3) 特殊病害虫緊急防除対策事業

(1) カンキツにおけるアザミウマ類対策の検討

果実着色期に加害するハナアザミウマの発生モニタリング手法について検討するとともに、粘着トラップへの誘殺数と果実被害との関係を調査した。

(小野壮一郎・長尾洋輝・西川辰洋)

(2) キウイフルーツのカイガラムシ類防除対策の検討

キウイフルーツにおけるクワシロカイガラムシの発生消長について県内7か所で調査し、防除時期の検討を行った。

(長尾洋輝・小野壮一郎)

4) 輸出用マツ盆栽の病害虫対策

EU 及び米国向け輸出マツ盆栽において、輸出先が侵入を警戒しているマメコガネとマツコナカイガラムシ、マツ類そうほう病、ゴマダラカミキリ等の発生実態について、EU 及び米国へ輸出を予定している全生産者の全盆栽を調査した結果、上記病害虫の発生は確認されなかった。また、マメコガネ成虫のマツ属への加害状況に基づく食餌選好性を調査したところ、同成虫によるマツ茎葉の食害は確認されなかった。このことからマメコガネ成虫はマツの茎葉を加害する可能性は低いと推察された。

(三浦 靖・鐘江保忠)

5) 鳥獣害防止対策事業

カモ4種とオオバンによる麦類被害の発生予察手法を検討した。11月～翌3月にかけて毎月2回、多度津町、高松市の被害は場近傍に位置するため池に生息するカモ等の頭数を計測した。併せて、周辺圃場の被害状況や被害対策の有無について調査した。

(長尾洋輝)

6) その他防除指導に関する課題

(1) イチゴ炭疽病の防除対策

イチゴ炭疽病菌56菌株を対象に、3剤について耐性菌検定を行った。

(北尾美咲・長尾洋輝)

(2) イネカメムシの防除対策の検討

イネカメムシの生態を確認するため発生消長調査を行うとともに、防除指針に掲載されている斑点米カメムシ対象薬剤6剤について薬剤感受性検定を実施した。併せてミナミアオカメムシについても同様に実施した。

(井之川育篤・鐘江保忠)

(3) マーガレット、ラナンキュラスの病害防除対策

本県のマーガレット栽培で問題となっている、8～9月の高温期に商品価値を著しく低下させる斑点症状を引き起こす病原菌を特定し、今後の防除指導に資することを目的として試験を実施した。

(北尾美咲)

59. 農薬指導取締関係

目的：農薬取締法に基づき、安全かつ適正な農薬の販売および使用を指導する。

1) 農薬取締指導

令和7年度末の農薬販売者数は620者、うち126販売者に立入検査を実施した。違反件数は9件で、その内容は帳簿の不備や記載漏れ等であった。

(井之川育篤・西川辰洋)

2) 農薬安全使用の指導

農薬販売者や使用者を対象に、農薬危害防止運動月間中の7月に、県内4か所で危害防止や安全・適正使用を啓発する講習会を実施した。

(小野壮一郎)

Ⅳ 試験研究の成果と成果の公表

1. 農業に関する普及・研究・行政連絡会議

部会名	各分類別成果数(令和7年度終了課題)								主要な成果
	普及	実証	参考	行政	保留	継続	その他	計	
作物・特作部会	2	1						3	
野菜部会	1		1		2			4	1
果樹・オリーブ部会	2							2	
花き部会	1	1						2	
畜産部会			2					2	
経営部会	1							1	
土づくり								0	
計	7	2	3		2			14	

成果の分類基準

普及:ただちに普及に移し得る成果

実証:技術は完成しているが、現場実証等により適用性を検討する成果

参考:試験研究における技術成果で、直ちに現場での普及や実証には移せないが、技術者等への参考技術として提供できる成果

行政:技術は完成しており、行政が施策などに反映して遂行できる成果

保留:技術は完成しているが、経済性や技術的難度など受け皿側の問題、あるいは法律による制限などから普及場面の検討が必要で、ただちに普及に移せない成果

継続:技術の改良が必要な成果

主要な成果:以上の成果の中で、「普及」に分類された成果の中から、特に農業振興上、重点的に普及を図ろうとするもの

普及

部会名	成 果 名
作物・特作部会	「イネカメムシ」発生状況と防除対策の検討
作物・特作部会	二条大麦「はるか二条」の安定生産技術の確立
野菜部会	ドローン(マルチローター型小型無人航空機)による露地野菜の病害虫防除技術の検討(うち青ネギ)
果樹・オリーブ部会	キウイフルーツのカイガラムシ類に対する新たな防除体系の確立
果樹・オリーブ部会	カンキツ果実を加害するアザミウマ類の新たな防除対策の確立
花き部会	低コスト出荷資材と品質保持効果の検討
経営部会	新規就農者の目標達成度把握手法の確立

実証

部会名	成 果 名
作物・特作部会	「おいでまい」へのいもち病抵抗性遺伝子の導入
花き部会	キク、カーネーション栽培におけるハダニ類の総合防除体系の確立

2. 印刷刊行物

印刷番号	印刷物名	所・課
1642 (25-01)	令和 6 年度業務年報	企画・営農
1643 (25-02)	令和 6 年度果樹試験成績	府中果樹研究所
1644 (25-03)	令和 7 年度業務計画	企画・営農
1645 (25-04)	2025 年度水稻関係除草剤試験成績書	作物・特作
1646 (25-05)	豊穰 No. 63	研究発表運営委員会
1647 (25-06)	香川県農業試験場研究報告第 77 号	企画・営農
1648 (25-07)	令和 7 年度野菜・花き試験成績書	野菜・花き

3. 豊穰 [No.63 (令和 7 年 12 月)]

- 1) 普通作
[話題提供] 小麦の育種方法について 多田 祐真
- 2) 野菜
「NN ハウス」によるミニトマト夏秋どり栽培 小松 奈央
- 3) 花き
ランキュラス促成栽培における「レイズドベッド」栽培の検討 樋林 美穂
- 4) 果樹
モモ「なつっこ」における二重袋除袋時期の検討 中山 史菜
「県産レモン」適地マップの作成と果実特性調査 久保 雅秀
- 5) 病害虫
ビワキジラミの省力的、効果的な防除方法の検討 生咲 巖
各種殺虫剤に対するナシのナミハダニ薬剤感受性検定 長尾 洋輝
香川県におけるシロイチモジヨトウとハスモンヨトウの薬剤感受性の変動 三浦 靖
ドローンによる青ネギの害虫防除効果の検討 松本 匠哉

4. 香川県農業試験場研究報告 [No.77 (令和 8 年 3 月)]

- 1) 小麦新品種「さぬきの夢 2023」の品種判別法の確立 植田早紀・多田祐真・村上恭子
- 2) アスパラガスの枠板式高畝栽培における不耕起客土による改植法 藤井詩乃・中村智哉・池内隆夫
- 3) 植物生育調節剤の 2 回目処理時の CPPU 単用処理がブドウ「シャインマスカット」の果実品質に及ぼす影響 福田哲生・真鍋敏郎・濱野康平
- 4) 植栽条件の異なるビワ園地におけるビワキジラミの防除手順の違いが作業効率に及ぼす影響 秋山晃輝・生咲巖・久保雅秀・川地昌彦・山下泰生
- 5) 急傾斜地における除草剤を利用した草刈作業の省力化技術に関する研究 (第 1 報 数種除草剤の適用性) 藤田究
- 6) 急傾斜地における除草剤を利用した草刈作業の省力化技術に関する研究 (第 2 報 除草剤の散布適期) 藤田究

5. 学会等発表・講演

発表者	発表課題	学会等名称	開催日
生咲 巖	香川県におけるカキ炭疽病の薬剤耐性菌の発生状況	令和7年度近畿中国四国農業試験研究推進会議果樹推進部会果樹研究会	2025/7/16, 17
伊賀悠人 福田哲生 中山史菜 川北兼獎 濱野康平	水田転換園における耐水性台木 <i>Actinidia macrosperma</i> の利用がキウイフルーツ「さぬきゴールド」の樹体生育、収量および果実品質に及ぼす影響	園芸学会中四国支部令和7年度大会	2025/7/26, 27
植田早紀 多田祐真	DNA マーカーを利用した「さぬきの夢 2023」の品種判別	一般社団法人日本育種学会第148回講演会	2025/9/10, 11
須崎浩一 生咲 巖	過炭酸ナトリウムと EDTA を用いたキウイフルーツ花粉除菌技術の開発	令和7年度日本植物病理学会関西西部会	2025/9/18, 19
生咲 巖 須崎浩一 青野光男	過炭酸ナトリウムを用いた除菌によってキウイフルーツかいよう病汚染花粉が無害化されていることの確認	令和7年度日本植物病理学会関西西部会	2025/9/18, 19
河原望遥	小麦「さぬきの夢 2009」における鶏ふんを活用した減化学肥料栽培法	令和7年度九州農業試験推進会議水田作推進部会 麦技術検討会	2025/9/18, 19
福田哲生 村尾昭二 真鍋哲郎 濱野康平	ブドウ「シャインマスカット」の無加温ハウス栽培における台木の違いが樹体生育、収量と果実品質に及ぼす影響	園芸学会令和7年度秋季大会	2025/9/20, 21
村上裕一	西南暖地でのニンニクの安定生産に関する研究（第1報）ニンニクの花茎及び側芽の分化条件の検討	園芸学会令和7年度秋季大会	2025/9/20, 21
生咲 巖 川田亮太	香川県のビワ栽培における防除体系の検討ービワキジラミ防除におけるドローンによる薬剤散布および整枝・せん定、摘果と薬剤散布の組み合わせによる防除効果ー	第1回中国四国植物防疫研究協議会・2025年中国地方昆虫学会合同大会	2025/11/27, 28
青野光男 兵頭紋佳 生咲 巖 須崎浩一	過炭酸ナトリウムと EDTA の混和によるキウイフルーツかいよう病菌汚染花粉に対する除菌効果の検証	第1回中国四国植物防疫研究協議会・2025年中国地方昆虫学会合同大会	2025/11/27, 28
長尾洋輝	香川県におけるイチゴ炭疽病に対する薬剤感受性検定	第1回中国四国植物防疫研究協議会	2025/11/27, 28
松本匠哉	施設イチゴ栽培における常温煙霧による主要害虫への防除効果の検討	第1回中国四国植物防疫研究協議会	2025/11/27, 28
片山貴博	ニンニク白絹病の生態と防除	第11回生態と防除研究会	2025/12/22
伊賀悠人	耐水性台木 <i>A. macrosperma</i> を利用したキウイフルーツの気候変動対策の検討	香川園芸研究協議会令和7年度第3回例会	2026/1/14
吉田美優	ドローン散布によるブロッコリー黒すす病及び花蕾腐敗病の防除効果の検討	令和7年度近畿中国四国農業試験研究推進会議病害虫推進部会問題別研究会「病害分科会」	2026/1/20, 21
片山貴博	アスパラガス褐斑病に対する QoI 剤および DMI 剤の感受性検定と有効薬剤の検討	令和7年度近畿中国四国農業試験研究推進会議病害虫推進部会問題別研究会「病害分科会」	2026/1/20, 21

発表者	発表課題	学会等名称	開催日
中井清裕	アスパラガスにおける自動走行防除機によるカンザワハダニ防除効果の検討	近畿中国四国農業試験研究推進会議病害虫推進部会問題別研究会	2026/1/20, 21
松本匠哉	アザミウマを対象とした感受性簡易検定キットの性能評価	近畿中国四国農業試験研究推進会議病害虫推進部会問題別研究会	2026/1/20, 21
根津 修 生咲 巖	ドローン散布用農薬開発の現状・課題と今後の展望	令和7年度果樹茶業研究会 果樹病害研究会	2026/1/27, 28
井之川育篤	香川県における斑点米カメムシ類の発生状況と薬剤感受性について	令和7年度中国四国ブロック病害虫防除所職員等研修会	2026/2/25, 26
植田早紀 村上裕一 村上恭子	茎枯病抵抗性アスパラガス品種育成のための DNA マーカーの開発	園芸学会令和8年度春季大会	2026/3/21, 22
伊賀悠人 福田哲生 中山史菜 川北兼奨 濱野康平	水田転換園における耐水性台木 <i>Actinidia macrosperma</i> の利用がキウイフルーツ‘香緑’の樹体生育、収量および果実品質に及ぼす影響	園芸学会令和8年度春季大会	2026/3/21, 22
福田哲生 村尾昭二 川北兼奨	ブドウ‘シャインマスカット’のジベレリン1回処理が果実品質に及ぼす影響	園芸学会令和8年度春季大会	2026/3/21, 22
藤井詩乃	瀬戸内地域における年内から年明けどりタマネギの安定生産へ向けた検討（第1報）	園芸学会令和8年度春季大会	2026/3/21, 22
村上裕一	アスパラガスとハマタマボウキの雑種後代の成分特性について（第1報）	園芸学会令和8年度春季大会	2026/3/21, 22
伊藤彩	レイズドベッドにおけるイチゴの無加温栽培体系の検討	園芸学会令和8年度春季大会	2026/3/21, 22
秋山晃輝	香川県における「なつたより」の普及に向けた試験研究	第24回全国ビワ研究協議会	2026/3/23, 24
片山貴博	アスパラガス褐斑病に対する QoI 剤および DMI 剤の感受性検定と有効薬剤の検討	令和8年度日本植物病理学会年会	2026/3/26～28
松本匠哉	アザミウマを対象とした感受性簡易検定キットの性能評価	第70回日本応用動物昆虫学会大会	2026/3/28～30

6. 報告書、雑誌等

執筆者	課題名	掲載資料名	掲載箇所
片山貴博	乾燥後のニンニクに発生した <i>Rhizopus arrhizus</i> による腐敗病（新称）	植物防疫	第79巻第10号 P12-P15
片山貴博	早穫りマルチ（土寄せ）栽培におけるニンニク白絹病の防除対策の検討	植物防疫	第80巻第3号 P26-P30

執筆者	課題名	掲載資料名	掲載箇所
生咲 巖	キウイフルーツのクワシロカイガラムシ幼虫のふ化時期と薬剤防除について	香川の果樹 241 号 (2025 年 5・6 月号)	p9～11
中山史菜	気候変動がモモ栽培に及ぼす影響とその対策について	香川の果樹 244 号 (2025 年 11・12 月号)	p11～13
中山史菜	キウイフルーツの品種動向と今後の展望	果樹園芸 921 号 (2025 年 4 月号)	p6～10
中山史菜	除菌処理花粉を用いた人工受粉がキウイフルーツ「さぬきゴールド」の結実と果実品質に及ぼす影響	果実日本第 81 巻 1 月号	p78～82
伊賀悠人	水田転換園における耐水性台木 <i>Actinidia macrosperma</i> 「バウンティ」の利用がさぬきゴールドの樹体生育、収量および果実品質に及ぼす影響	香川の果樹 246 号 (2026 年 3・4 月号)	P13～16
福田哲生	キウイフルーツかいよう病 Psa 3 系統の発生圃場における品種の早期更新技術の開発	果実日本第 80 巻 10 月号	p70～73
福田哲生	キウイフルーツかいよう病 Psa 3 系統の発生圃場における品種更新方法の検討	果樹種苗第 180 号 (2025 年 11 月)	P9～12
多田寿和子	キウイフルーツ園における土壌物理性の重要性和改善策	香川の果樹 245 号 (2025 年 1・2 月号)	P13～16
秋山晃輝	ビワキジラミを回避するカットバック整枝による新樹形の開発	香川の果樹 243 号 (2025 年 9・10 月号)	P15～17
久保雅秀	「県産レモン」産地倍増化のための試験研究について	香川の果樹 242 号 (2025 年 7・8 月号)	P 7～9
長尾洋輝	果樹園管理 病虫害防除	香川の果樹	第 39 巻 1 号～ 第 39 巻 6 号
村上裕一 藤井詩乃	かがわ型アスパラガス栽培と品種開発	施設と園芸 No. 212 (2026 冬)	P9～13

7. 職務発明

発明の名称	発明者	県職務発明審査会 認定日	備考
農林水産物（ニンニク）の品種育成	池内隆夫 村上裕一	令和 7 年 9 月 22 日	

V 指導・啓発活動

1. 農業大学校講師派遣

学年	科目	教科	時間数	回数	担当	氏名
1	基礎教育	水稻・麦概論	12	2	作物・特作(作物)	相澤 美里
		土壌肥料	8	2	病虫・環境(土壌肥料)	平木 孝典
			8	2	府中果樹研究所	松本 匠哉
			16	4		多田寿和子
		農業基礎実験	4 4	1 1	病虫・環境(土壌肥料)	平木 孝典 松本 匠哉
		農業簿記	12	3	企画・営農	中村 雅彦
		雑草学	8	2	作物・特作(作物)	河原 望遥
			4	1	野菜・花き(野菜)	村上 裕一
			4	1	府中果樹研究所	山田 英尚
		遺伝子資源活用概論	4	1	病虫・環境(生物工学)	植田 早紀
			4	1	野菜・花き(野菜)	藤井 詩乃
			4	1	作物・特作(作物)	多田 祐真
			2	1	府中果樹研究所	山田 英尚
			2	1	小豆オリーブ研究所	山本 実奈
	植物防疫		4	1	病虫・環境(病虫)	中井 清裕
			4	1		松本 匠哉
			4	1		吉田 美優
			4	1		片山 貴博
			4	1		片山 貴博
	専門教育	(花き園芸コース)				
		宿根草Ⅰ(キク)	16	4	野菜・花き(花き)	樫林 美穂
		宿根草Ⅱ(カーネーション)	16	4	野菜・花き(花き)	浜田佳代子
		鉢花栽培	16	4	園芸総合センター	村口 浩
		(野菜園芸コース)				
		葉菜類栽培	4	1	野菜・花き(野菜)	伊藤 博紀
			4	1		村上 裕一
			8	2		藤井 詩乃
			8	2		伊藤 彩
			4	1		加成讃治哉
			4	1		小松 奈央
		(果樹園芸コース)				
		カンキツ栽培	16	4	府中果樹研究所	久保 雅秀
		ブドウ栽培	16	4	小豆オリーブ研究所	福田 哲生
		キウイフルーツ栽培	16	4		伊賀 悠人
		オリーブ栽培	8	2		川原 清剛
			8	2		米澤 晃子
2	基礎教育	生物工学実験	32	8	病虫・環境(生物工学) 園芸総合センター	植田 早紀 加畑 真理
		スマート農業	2	1	野菜・花き(野菜)	大矢 啓三
			2	1	企画・営農	中村 雅彦
		パソコン簿記演習	32	8	企画・営農	中村 雅彦
	専門教育	(野菜園芸コース・花き園芸コース) 養液栽培	16	4	野菜・花き(野菜)	伊藤 博紀
		(野菜園芸コース) 野菜新技術	8	2	野菜・花き(野菜)	大矢 啓三

2. 研修会等の講師など

研修会等名称	内 容	講師名	期 日
第13回中讃地域集落営農法人協議会総会	小麦新品種「さぬきの夢 2023」の育成について	多田祐真	2025/4/23
第22回香川県農業協同組合中央地区キウイフルーツ部会総会	さぬきエメラルドの特性について	伊賀悠人	2025/4/24
第19回香川県農業協同組合中央地区ぶどう部会総会	「シャインマスカット」の生理障害について	福田哲生	2025/7/11
農業共済組合現地研修会	ぶどうの栽培管理について	福田哲生	2025/7/14
小豆島オリーブ振興協議会 オリーブ夏期栽培講習会	夏期の栽培管理	川原清剛	2025/7/14、 15、17、18
令和7年度香川県オリーブ生産者ネットワーク総会および研修会	オリーブの病虫害と防除対策	米澤晃子	2025/8/22
丸亀市農業経営者協議会会員研修	さぬきうどん用小麦品種「さぬきの夢」の育成	多田祐真	2025/8/29
令和7年度かがわ長寿大学体験学習	令和7年度かがわ長寿大学（2年生）体験学習に係る講義について	中西正憲 川原清剛 山本実奈	2025/9/25
香川大学農学部「オリーブ学」	オリーブの講義（歴史、活用）	木下和也	2025/10/10、 11/14
〃	オリーブの活用（現地実習）	中西正憲 川原清剛 山本実奈	2025/11/15
令和7年度香川大学オリーブ収穫体験	オリーブの栽培等（講義）	中西正憲	2025/11/15
令和8年産施設ぶどう生産対策会議	土壌診断を活用した施肥管理について	多田寿和子	2025/11/18
香川大学農学部講義	香川県農業の現状と試験研究の取り組み	藤本 伸	2026/11/28
小豆島オリーブ振興協議会 オリーブ冬期栽培管理講習会	整枝せん定、今後の栽培管理	川原清剛	2026/2/15～ 18
せとみどり・オルビーナ普及推進研修会	県オリジナル品種の栽培及び加工特性について	川原清剛	2026/2/27
〃	果実温度別採油により得られたオイル品質の比較について	木下和也	2026/2/27

3. 品評会、審査会等の出席

品評会、審査会等名称	主 催 者	氏名等	期 日
指定かんきつ損害評価会	香川県農業共済組合	十河土志夫	2025/5/15
損害評価全体会	香川県農業共済組合	森 芳史	2025/6/4
損害評価会キウイフルーツ共済部会	香川県農業共済組合	森 芳史	2025/7/23
損害評価会かんきつ共済部会	香川県農業共済組合	森 芳史	2025/7/23 2026/3/10
損害評価会くり共済部会	香川県農業共済組合	森 芳史	2025/12/9
損害評価会麦共済部会	香川県農業共済組合	山地優徳	2025/12/18 2026/3/12

品評会、審査会等名称	主 催 者	氏名等	期 日
損害評価会水稲共済部会	香川県農業共済組合	山地優徳	2025/12/18 2026/3/12
損害評価会ぶどう共済部会	香川県農業共済組合	森 芳史	2026/1/26
損害評価会かき共済部会	香川県農業共済組合	森 芳史	2026/1/26, 2/17
「さぬきの夢」うどん技能グランプリ	農政水産部（農業生産流通課）	十河土志夫 岡田彰夫 多田祐真 植田早紀 河原望遥	2025/9/26, 10/8, 10/10 , 11/12, 14
香川県主要農作物種子協会幹事会	香川県主要農作物種子協会	山地優徳	2025/6/26
令和 7 年産種子麦採種計画等検討会	香川県主要農作物種子協会	山地優徳	2025/9/11
第 70 回高松市菊花展競技会	高松市、香川県菊友会	十河土志夫 大熊将夫	2025/11/5
損害評価会モモ共済部会	香川県農業共済組合	森 芳史	2025/11/11
坂出みかん共撰場「小原紅早生みかん」 果実品評会	坂出みかん共撰場運営委員会	久保雅秀	2025/12/5
第 62 回香川県花き品評会（立毛の部）	香川県、花の里かがわ推進委員 会 高松市農業振興協議会	櫛林美穂 村口 浩 加畑真理	2025/9/17, 11/27, 12/1 0-11
農業大学校卒業論文発表会	香川県立農業大学校	池内隆夫 山田英尚	2025/12/23
令和 8 年産水稲種子もみ採種計画検討 会	香川県主要農作物種子協会	岡田彰夫	22026/1/27
令和 7 年度香川県オリーブオイル品評 会	NPO 法人小豆島オリーブ協会	木下和也	2026/2/13
第 62 回香川県花き品評会（生産物の部）	香川県、花の里かがわ推進委 員会 高松市農業振興協議会	櫛林美穂 加畑真理	2026/2/20
高松市園芸品評会（不知火）	高松市	山田英尚 久保雅秀	2026/2/220

4. 技術研修生等受け入れ

1) 特別研修生

研修項目(受け入れ先)	人数	国籍・所属	期間
水稲育種技術等の習得 (作物・特作研究課)	1 名	岡山大学大学院 インターンシップ	2025/8/20～8/27
作物、野菜及び花きの高品質・安定 生産技術の習得（本場）	1 名	香川大学農学部 インターンシップ	2025/9/1～9/5
果樹の高品質・安定生産技術の習得 (府中果樹研究所)	1 名		
果樹の栽培技術の習得 (府中果樹研究所)	3 名	香川県農業協同組合	2025/5/14～2026/3/31

研修項目(受け入れ先)	人数	国籍・所属	期間
主要野菜、花き及び果樹の生理・生態と栽培技術の習得 (野菜・花き研究課、府中果樹研究所)	2名	(JA香川県農業インターン生) (JA香川県新規採用職員)	2025/5/12～2026/3/19

2) 農業大学校専攻生

人数	専攻コース	研修担当	期間
2名	野菜園芸	野菜・花き研究課(野菜担当) 病虫・環境研究課(病害虫担当)	2025/4～2026/2

3) 職場体験学習受け入れ

学 校 名	人数	期 間	受け入れ場所
綾川中学校	4名	2025/10/28～10/30	本場
香東中学校	4名	2025/11/12～11/13	園芸総合センター
中部支援学校	8名 8名	2025/5/28～6/10 2025/10/16～11/6	園芸総合センター
香南中学校	1名	2025/9/10～9/12	園芸総合センター
木太中学校	12名	2025/10/28～10/30	園芸総合センター

5. 技術指導・見学来訪者など

① 本場(満濃試験地含む)

訪問日	訪問者(個人名、団体名)	人数	目 的
4月23日	福島県農業総合センター職員	2	アスパラガス試験研究視察
5月16日	高松桜井高校、坂出工業高校担当学生、教諭	7	全国総文祭打合せ
6月11日	綾上小学校5年生	36	お米学習
6月24日	JA長崎県アスパラガス部会	15	アスパラガス高畝栽培視察
7月27日	全国総文祭自然科学部巡検	46	小麦育種について
7月29日	全国総文祭新聞部取材	42	香川のうどん文化について
7月30日	長崎県農業イノベーション推進室	8	アスパラガス高畝栽培視察
8月5日	徳島県洋ラン生産者連絡協議会	45	環境制御技術(イチゴハウス)
8月18日	岡山あさか会	12	イチゴ育苗技術視察
8月19日	和歌山県農業試験場	1	イチゴ栽培研究について
8月20日	綾川中学校教諭	1	職場体験打合せ
8月26日	林田小学校青木教諭ほか	3	校外学習打合せ
9月4日	NOSAI 香川高松女性の会	25	NNハウス見学、高温対策の研修
8月26日	林田小学校教諭	3	校外学習打合せ
8月27日	県庁インターンシップ	11	農業試験場業務体験
8月28日	(株)レグミン、長野県野菜花き試験場	4	共同研究打合せ

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
9月8日	津田高校学生・教師	2	農業機械関係業務体験
10月17日	綾川中学校生徒	4	職場体験打合せ
10月28日	アスパラ茎枯コンソ構成員	28	中間検討会
11月4日	高室イチゴ青年部	7	イチゴ栽培技術視察
11月5日	ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所	2	小麦育種意見交換
11月7日	水資源機構吉野川事務所職員	2	農業関係機関職場体験
11月12日	京浜栃木市場	15	イチゴ高設栽培等視察
11月18日	さぬき市アスパラ部会	22	アスパラガス高畝栽培視察
11月18日	香川大学経済学部学生他	3	おいでまいチャレンジツアー打合せ
11月19日	四国新聞記者	1	温暖化に関する取材
11月26日	坂出市立林田小学校5年生	51	校外学習（試験場見学）
11月27日	気象庁、高松地方气象台	4	気象データの活用について打合せ
1月16日	中国四国ブロック稲作経営者現地研究会	28	「さぬきの夢」（うどん用小麦）への取り組みについて
2月3日	ジェイエイやましろファーム	14	青ネギ収穫予測システム、収穫機等研修
2月6日	東温市農業技術者連絡協議会	14	米麦育種関係視察
2月18日	JA 善通寺青壮年部	7	野菜の栽培技術関係視察
2月25日	九州沖縄農業研究センター	3	府県小麦コンソーシアム打合せ
3月12日	香川大学農学部准教授・学生	2	玄米品質分析について打合せ

注) 県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

② 府中果樹研究所

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
6月17日	多度津ぶどう部会役員研修会	15	肥培管理について
7月15日	JA わかやま晩柑部会	5	中晩柑の栽培管理技術ほか
7月15日	群馬県キウイフルーツ農家	4	キウイフルーツ栽培管理
8月1日	大洲喜多地区果樹部会	20	果樹栽培技術視察
8月4日	宇和島市青年農業者連絡協議会	20	みかん等の栽培視察
8月6日	三ヶ日農協農青連ファーマーズクラブ	18	みかん安定生産対策視察
8月6日	鹿児島県農業開発総合センター	2	ぶどう革新的新品種開発プロジェクト打合せ
8月29日	小豆島オリーブ振興協議会	40	果樹の試験研究視察
9月4日	JA ひろしま下島柑橘研究会	15	かんきつの高品質化・安定栽培視察
9月9日	中国四国農学系大学生	10	傾斜地フィールド演習
9月18日	中央地区キウイフルーツ部会	20	キウイフルーツ栽培視察

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
9 月 22 日	中央地区ぶどう部会	20	ぶどう生育管理視察
9 月 25 日	坂出地区果樹青壮年部	8	かんきつの栽培試験視察
11 月 11 日	兵庫楽農生活センター	9	キウイフルーツ・アボカド栽培管理視察
11 月 11 日	JA 大阪南青壮年部太子支部	15	ぶどう、キウイフルーツ栽培管理視察
11 月 18 日	佐賀県果樹試験場	4	キウイフルーツに関する研究
11 月 25 日	高瀬ぶどう部会	20	ぶどう栽培育成管理視察
11 月 27 日	大阪府枚方市農業委員会	17	キウイフルーツ、かんきつ栽培視察
12 月 8 日	福岡県農林業総合試験場	2	シャインマスカット未開花症対策の試験研究
2 月 3 日	三豊もも部会	35	もも栽培育成管理視察
2 月 19 日	農業大学校技術研修科	13	府中果樹研究所の取組み
2 月 24 日	長崎県農林技術開発センター	2	気候変動対応ビワ新品種開発コンソ打合せ
3 月 10 日	山梨県果樹試験場	1	シャインマスカット生理障害および土壌管理
3 月 24 日	全国ビワ研究協議会	50	ビワ試験栽培圃場視察

注) 県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

③ 小豆オリーブ研究所

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
4 月 14 日	三豊市職員	4	オリーブ研究所視察
6 月 16 日	ブラジル官能評価員	4	オリーブ研究所視察
6 月 23 日	ウルグアイオリーブ協会	2	オリーブ循環型農業視察
7 月 18 日	立教女学院高等学校	2	オリーブ研究所視察
7 月 24 日	株式会社 F. U. KAGAWA	2	オリーブ切り枝向き品種の探索
8 月 3 日～ 4 日	AP 通信、日テレアックスオン	2	オリーブ研究所視察ほか
8 月 6 日	福井市園芸センター	2	オリーブ立枯病対策に関する協議
8 月 18 日	香川高等専門学校	5	オリーブ研究所視察
8 月 21 日	京都産業大学生命科学部	9	オリーブ研究所視察
9 月 1 日	北野緑生園	2	オリーブ研究所視察
9 月 9 日	三ヶ日農業協同組合	3	オリーブ研究所視察
9 月 11 日	東洋オリーブ株式会社	5	オリーブ研究打合せ
9 月 12 日	JOOP JAPAN	3	オリーブ研究所視察
9 月 16 日	ウェスティンホテル東京ほか	4	オリーブ研究所視察ほか
9 月 16 日	小豆島町立苗羽小学校	12	オリーブ研究所視察研究
9 月 24 日	有限会社グランテック	2	オリーブ研究所視察

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
9 月 29 日	浜松市認定農業者協議会浜北支部	3	オリーブ研究所視察
9 月 30 日	広島大学大学院	1	オリーブ研究協力
10 月 28 日	小豆島町オリーブ課ほか	2	令和 7 年度香川県オリーブオイル品評会打合せ
12 月 15 日	新潟県農業総合研究所佐渡農業技術センター	2	オリーブ研究所視察
12 月 17 日	愛媛大学社会共創学部	4	オリーブ研究所視察
12 月 25 日	FM 香川	2	オリーブオイル官能評価取材対応
2 月 13 日	広島工業大学	3	オリーブ研究所視察
2 月 26 日	ひょうご酒米処合同会社	1	オリーブ研究所視察

注）県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

④ 園芸総合センター

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
4 月 22 日	高松市生活研究グループ連絡協議会	26	施設見学
4 月 25 日	香南中学校	45	職場見学
5 月 27 日	香川県立香川中部支援学校高等部(2 年生、職員)	8	職場見学
6 月 2 日	令和 7 年度新任者研修 P-1	2	ラナンキュラス等切り花栽培について
6 月 3 日	香川県立香川中部支援学校高等部(1 年生、職員)	14	職場見学
6 月 17 日	かわぞえ婦人会	20	施設見学
6 月 18 日	農業大学校	3	園芸研究視察
6 月 30 日	NHK 高松放送局	2	施設リニューアル、立体花壇に関する取材
6 月 30 日	読売新聞	1	施設リニューアル、立体花壇に関する取材
7 月 2 日	三豊市	2	園芸研究視察
7 月 3 日	四国新聞	1	立体花壇に関する取材
7 月 29 日	ブラジル視察団	12	施設見学
9 月 9 日	国分寺生活改善グループ	17	施設見学
9 月 13 日	まんのう町社会福祉協議会	20	施設見学
9 月 26 日	香東中学校 2 年	2	職場見学
10 月 21 日	香川県立香川中部支援学校中学部(3 年生、職員)	40	職場見学
12 月 11 日	石田高校（2 年生、職員）	26	園芸研究視察
1 月 14 日	四国新聞	1	梅に関する取材
1 月 22 日	西日本放送	2	ロウバイ・梅に関する取材
2 月 18 日	お花見散歩ガイドツアー	30	植栽状況について

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
2 月 26 日	西日本放送	2	梅に関する取材
2 月 28 日	お花見散歩ガイドツアー	39	植栽状況について
2 月 28 日	高松空港エリア農業観光推進協議会	23	植栽状況について
3 月 8 日	お花見散歩ガイドツアー	18	植栽状況について
3 月 9 日	NHK 高松放送局	3	梅に関する取材
3 月 12 日	FM 香川	1	しだれ桜ライトアップ イベントに関する取材
3 月 18 日	お花見散歩ガイドツアー	5	植栽状況について
3 月 26 日	西日本放送	5	しだれ桜ライトアップ イベントに関する取材

注) 県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

VI その他

1. 委員会・協議会等の委員など

委員会等の名称	役職等	職 名	氏名
農業に関する普及・研究・行政連絡会議	委員	場長	十河土志夫
農業に関する普及・研究・行政連絡会議 (企画戦略会議兼スマート農業戦略総合部会)	議長	副場長	藤本 伸
香川県試験研究機関場所長連絡会	委員	場長	十河土志夫
香川県試験研究機関場所長連絡会幹事会	幹事	副場長	藤本 伸
全国農業関係試験研究場所長会	幹事	場長	十河土志夫
近畿中国四国農業試験研究推進会議	本会議構成員	場長	十河土志夫
綾上園芸優良種苗生産連絡会	会長	園芸総合センター所長	大熊将夫
香川県植物防疫協会 香川県施肥合理化協会	幹事	作物・特作研究課長 病虫・環境研究課長 病害虫防除所主席研究員	山地優徳 川西健児 鐘江保忠
	理事	場長	十河土志夫
香川県主要農作物種子協会	幹事	作物・特作研究課長	山地優徳
	参与	場長	十河土志夫
香川園芸研究協議会	副会長	場長	十河土志夫
	理事	府中果樹研究所長 小豆オリーブ研究所長 園芸総合センター所長 病害虫防除所長	森 芳史 中西正憲 大熊将夫 森 充隆
	監事	副場長	藤本 伸
四国地区気象情報連絡会	委員	場長	十河土志夫
高松市農業基本対策審議会	専門委員	場長	十河土志夫
農業インターン制度運営委員会	委員	場長	十河土志夫
香川県農業共済組合連合会損害評価会	委員	場長 府中果樹研究所長 作物・特作研究課長	十河土志夫 森 芳史 山地優徳
高松市菊花展競技会	審査員	場長 園芸総合センター所長	十河土志夫 大熊将夫
香川県花き品評会	審査員長	場長	十河土志夫
香川県花き品評会	審査員	野菜・花き研究課主任技師 園芸総合センター主席研究員 園芸総合センター主席研究員	樋林美穂 大川俊彦 村口 浩
「さぬきの夢」うどん技能グランプリ審査会	審査員	場長 作物・特作研究課主席研究員 作物・特作研究課主任研究員 病虫・環境研究課主任研究員 作物・特作研究課主任技師	十河土志夫 岡田彰夫 多田祐真 植田早紀 河原望遥
かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度 等適正化審査会	委員	小豆オリーブ研究所長	中西正憲

委員会等の名称	役職等	職 名	氏名
かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度 認定製造事業者の製造工場等への立入調査	調査員	小豆オリーブ研究所主任研究 員	木下和也 山本実奈
香川県オリーブオイル官能評価パネル	パネルリーダー	小豆オリーブ研究所	木下和也
ISO/IEC 17025:2017 認定試験所	ラボラトリマネ ジメント	小豆オリーブ研究所長	中西正憲
園芸学会中四国支部会	評議員	府中果樹研究所長	森 芳史
日本作物学会四国談話会	学会賞選考委員	作物・特作研究課	岡田彰夫
	評議員	作物・特作研究課	岡田彰夫
土壌保全調査事業全国協議会	副会長	病虫・環境研究課主席研究員	平木孝典

2. 職員研修

国内派遣研修(依頼研究員)

研修参加者	研修テーマ	実施機関	期間
藤井 詩乃	極早生タマネギの育種技術及び手 法に関する研修	株式会社植物育種研究所	2025/6/2 ～2025/7/31
北尾 美咲	マーガレットに発生したウイロイド等の 診断と防除に関する研究	国立研究開発法人農業・食品産 業技術総合研究機構植物防疫 研究部門 基盤防除技術研究領域	2025/9/1 ～2025/11/28

農林水産関係若手研究員研修

研修参加者	所属	研修場所	機関
長尾洋輝	病虫害防除所	農林水産省	2025.10.14～15